

第3章 大都市における30歳代の仕事および生活に対する意識

第1節 はじめに

本章は、30歳代の仕事および生活に対する意識の諸特徴を整理し、またそうした意識を規定している諸要因の影響について検討することを目的としている。より具体的には、30歳代の職業意識および生活意識の1) 全体的な傾向性の把握、2) 社会的諸属性との関連性の検討、3) 20歳代の意識との比較、そして4) それら意識の規定要因の解明が、本章における分析課題である。20歳代との比較に関して、本章では以下2つのデータを用いる。ひとつ目が、本調査の対象者(30歳代男女)と同じ世代が20歳代であった約10年前、すなわち2001年に実施された「第1回 若者のワークスタイル調査」の20歳代データ(10歳代および主婦・学生データは除いており、重み付けなし)である。このデータを用いることで、ここ10年間で若者の仕事および生活に対する意識の変容を疑似パネル的にはあるが検証することが可能となる。もうひとつのデータは、本調査と同じ2011年実施の「第3回 若者のワークスタイル調査」の20歳代データである。現在の30歳代の意識の特徴を明らかにするためには、2時点間の意識の変化だけでなく、同じ社会状況の中に位置する現在の20歳代との比較を通して、世代間での意識の相違についても検討する必要があるだろう。本章では、これら3つのデータを用いて、現在の30歳代の職業意識および生活意識の傾向性が、彼ら彼女らの世代に特有なものなのか(=世代効果)、それとも社会状況の変化により多分に影響を受けた結果(=時代効果)なのか、あるいは年齢による効果ゆえに生み出されたもの(=年齢効果)なのかについて仮説的にではあるが検討し、その結果を第4節で整理する。

では、これまでの「若者のワークスタイル調査」では若者の仕事あるいは生活に関する意識としていかなる特徴が見出されてきたのか。前述のように、過去に実施されたワークスタイル調査はおもに20歳代の若者(地方調査では20歳代前半~30歳代前半)を対象としているが、それらの調査から得られたおもな知見を確認しておこう。まず、フリーターへの注目が高まりを見せていた2001年実施の「第1回 若者のワークスタイル調査」(東京)では、職業意識の特徴に関して、「全体としては…職業に対して前向きな若者が多い」こと、「フリーターを支える意識は、若者に広く共有されている」ことが指摘されていた(小杉 2001、p.76)。また、生活意識に関しては、「周囲からうまくいっていると思われているか、将来の見通しは明るいかといった生活全般への評価は女性では全般に高く就業状態やキャリアによる差は小さいが…性役割分業観を背景に、男性の非正社員では、生活面での不満や不安が強い」(同書、p.76)と、ジェンダーによって「就業の質」が意識に与える影響に違いがあることが示されている。他方、ジェンダーと労働形態の組み合わせにより構成される若者サブグループ間の比較をおこなった本田(2001)では、労働市場においてマージナルな位置にあり、既存の企業社会やジェンダ

一秩序を変革しようとして期待される非典型男性と典型女性とに親近性は見出せるものの、それと同時に現職の職種等の客観的状况においても主観的な意識の面においても両者は対照的な位置にあり、既存の秩序を揺さぶるまでには至らないだろうということ、しかし女性内部の差異を微細に見ていくと、現在の就業形態の違いが彼女らの意識に大きく影響するが、職業キャリアの影響も見落とすことはできず、特に職業に対して積極的な意識を持つ非典型雇用から典型雇用に移行した女性は秩序変革の可能性を予感させる存在であることが論じられている。

つづく「第2回 若者のワークスタイル調査」(2006年：東京)では、「20歳代後半層の将来の見通しやこれまでの進路の順調感については、キャリア別の差異が大きく、「非典型一貫」型が将来の見通しや経済的自立、生活満足感などにおいて特に低い」が、「2001年に比べて全体に肯定的な傾向に変わっており…若年層における非典型雇用が一般化するなかで、「正社員定着」型でないことを問題としては受け止めなくなったと推察される」(小杉 2001、p. 58)と、若者の意識に変容の兆しがあることが示されている。ただし、2008年に北海道と長野で実施された「若者のワークスタイル調査(地方版)」においては、東京とは異なる傾向が示された。すなわち、若者の意識はそれぞれの地域の特性(雇用情勢等の複合要因)によっても左右されており、東京以上に非典型雇用が拡大し、深く長い不況感のある北海道の年長世代(25～34歳層)では、「正社員定着」と「非典型一貫」で職業生活評価(本章における生活意識)に大きな開きがあり、後者の否定的な意識の強さが目立ったのである(小杉 2009a)。同様に、製造業が多く、労働市場の需給バランスがとれている長野の年長世代でも、東京以上に就業キャリアによる意識差が大きいという結果となった。今回の調査は東京都が対象地のため地域間の比較はしないが、こうしたことを念頭に置いておく必要はあるだろう。

最後に、本調査と同年に実施された「第3回 若者のワークスタイル調査」(2011年：東京)では20歳代男女が対象となっているが、そこでは1)彼ら若者は「今を楽しく生きて将来のことを考えなくなっているとは言えず、2001年から、一部の若者を除いて、自分に向いている仕事かわからないという迷いをより抱えるようになり、職業生活からの離脱志向が高まった」(寺地 2012、p. 118)こと、2)第1回調査の20歳代と比べて、やりたいこと志向には弱まりが見られ、若者の意識には『堅実化』が生じていること(同書、pp. 118-119)等が指摘されている。

以上、ここまで先行する調査結果を見てきた。以下では、これらの知見を踏まえた上で、現在の30歳代の仕事および生活に対する意識の検討を進めていこう。30歳代の仕事に対する意識については第2節で、生活に対する意識については第3節で分析の対象とする。

第2節 30歳代の仕事に対する意識

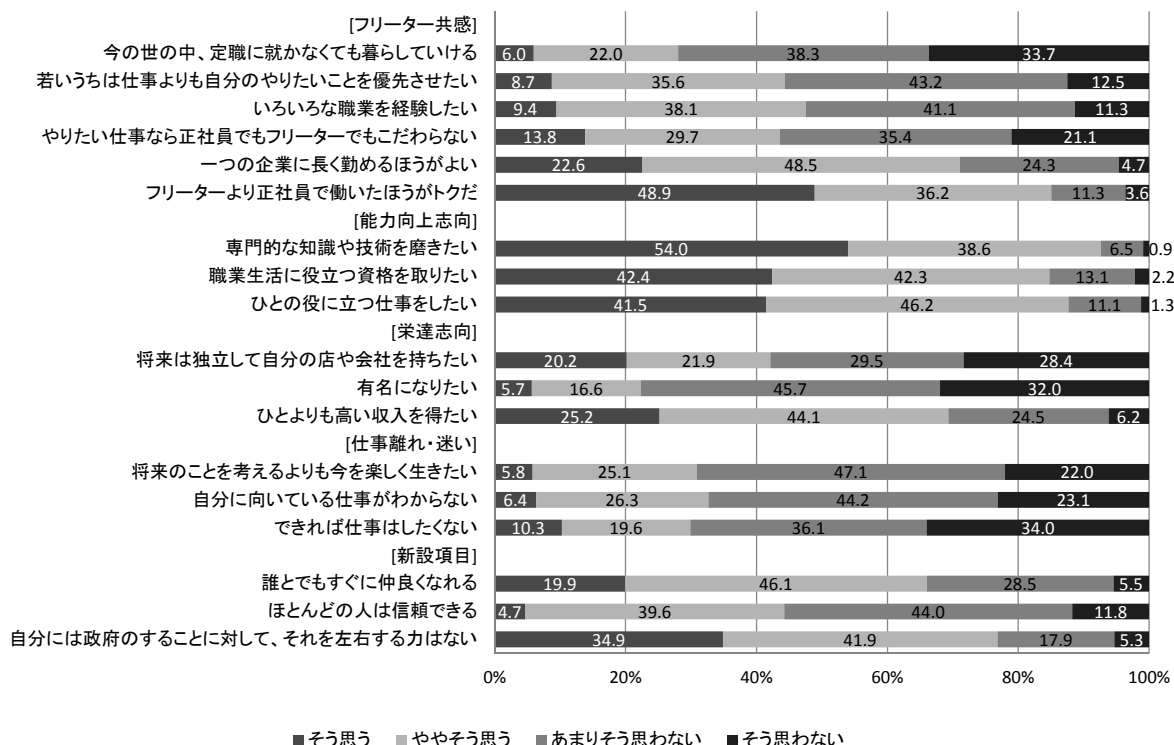
1. 30歳代の職業意識の傾向と2時点間比較

(1) 30歳代全体の職業意識の傾向

まず、30歳代全体における職業意識の傾向について見ておこう。職業意識に関する質問項目への回答結果を整理したものが、図表3-1である。なお、図表3-1における質問項目の分類（「フリーター共感」、「能力向上志向」、「栄達志向」、「仕事離れ・迷い」）は、小杉（2001、p.54）に従っている。

図表3-1において肯定的な回答（「そう思う」＋「ややそう思う」）が8割を超えている質問項目としては、多い順に「専門的な知識や技術を磨きたい」（92.6%）、「ひとの役に立つ仕事をしたい」（87.7%）、「フリーターより正社員で働いたほうがトクだ」（85.1%）、「職業生活に役立つ資格を取りたい」（84.8%）が挙げられる。他方、肯定的な回答が4割以下となっている質問項目としては、少ない順に「有名になりたい」（22.3%）、「今の世の中、定職に就かなくても暮らしていける」（28.0%）、「できれば仕事はしたくない」（29.9%）、「将来のことを考えるよりも今を楽しく生きたい」（30.9%）、「自分に向いている仕事が見つからない」（32.6%）がある。

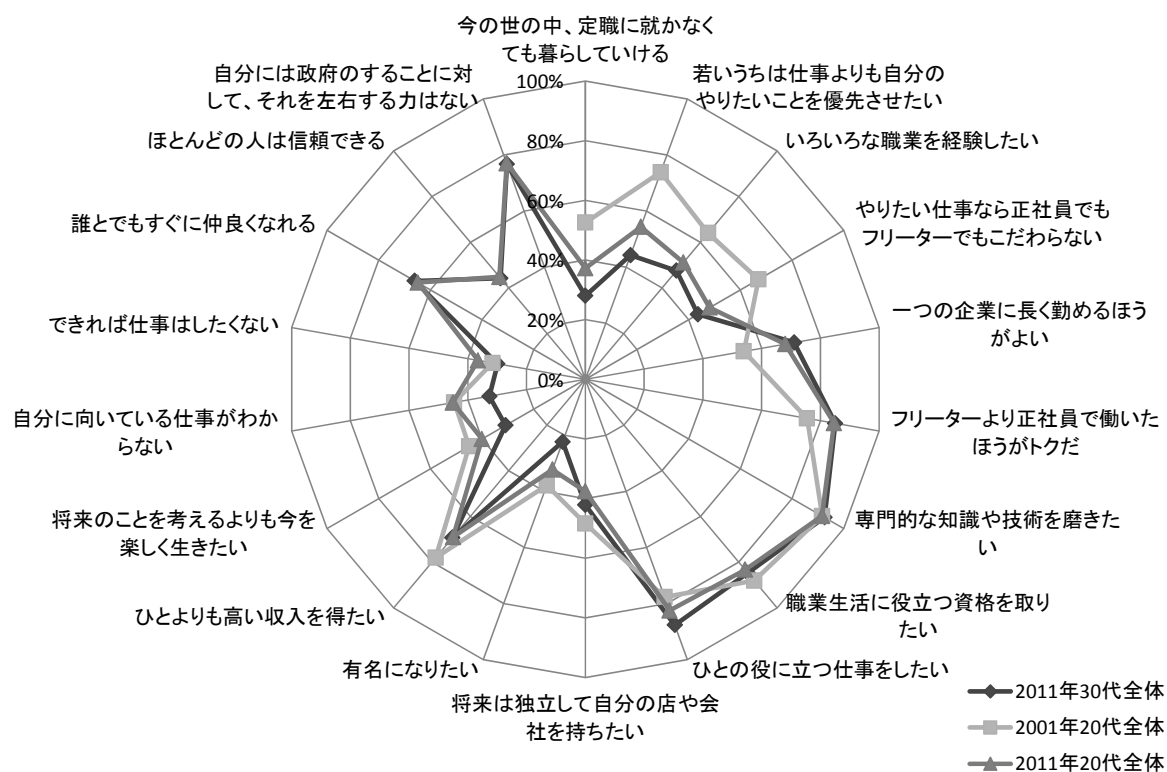
図表3-1 30歳代の職業意識



では、こうした傾向は、本調査対象者である30歳代に特徴的なのだろうか。つづいて、2001年調査の20歳代（主婦・学生除く）および2011年調査の20歳代のデータとの比較

から、2011年時点での30歳代の職業意識の相対的な位置づけを示す。上記3つのデータから、職業意識に関する質問項目への肯定的回答（「そう思う」＋「ややそう思う」）の割合をまとめたものが、図表3-2である。なお、「誰とでもすぐに仲良くなれる」、「ほとんどの人は信頼できる」、「自分には政府のすることに対して、それを左右する力はない」は、2011年調査から設けられた新設項目のため、2001年の20歳代との比較はできない。

図表3-2 職業意識の全体的傾向性の比較



第1に、「フリーター共感」に分類される質問項目（「今の世の中、定職に就かなくても暮らしていける」（＝「働き方の相対化」意識）、「若いうちは仕事よりも自分のやりたいことを優先させたい」（＝やりたいこと志向）、「いろいろな職業を経験したい」（＝多職経験志向）、「やりたい仕事なら正社員でもフリーターでもこだわらない」（＝就業形態へのこだわりのなさ）、「一つの企業に長く勤めるほうがよい」（＝同一企業勤続志向）、「フリーターより正社員で働いたほうがトクだ」（＝正社員志向））に関しては、概して2011年の30歳代と20歳代で、肯定的回答の割合に同様な傾向が見られる。こうした傾向は、2001年よりも2011年において社会全体としてフリーター共感意識が低下していることの反映ではないかと考えられる。

第2に、「能力向上志向」（「専門的な知識や技術を磨きたい」（＝専門志向）、「職業生活に役立つ資格を取りたい」（＝資格志向）、「ひとの役に立つ仕事をしたい」（＝利他志向））に関しては、3者間で肯定的回答の割合にそれほど大きな違いは見られないが、2001年の20歳代で資格志向が、2011年の30歳代で利他志向が、他に比べて若干高くなっている。

第3に、「栄達志向」（「将来は独立して自分の店や会社を持ちたい」（＝独立志向）、「有名になりたい」（＝有名志向）、「ひとよりも高い収入を得たい」（＝高収入志向））に関する回答を見ると、どれも2001年の20歳代で肯定割合が高くなっており、「有名になりたい」への肯定的回答は2011年の30歳代で他と比べてかなり低くなっている。また、高収入志向は2001年の20歳代と2011年の2世代との間で差が大きいため、時代背景により大きく左右されている意識ではないかと言える。

最後に、「仕事離れ・迷い」（「将来のことを考えるよりも今を楽しく生きたい」（＝現在志向）、「自分に向いている仕事かわからない」（＝仕事の迷い）、「できれば仕事はしたくない」（＝仕事離れ））に関しては、現在志向および仕事の迷いは30歳代と20歳代で肯定割合が異なっており、ともに30歳代で低くなっていることから、それらの意識は年齢が高まるにつれ徐々に弱まっていくのではないかということが推測される。また、仕事離れ意識は、2011年の20歳代に比べて、2011年の30歳代と2001年の20歳代でやや低い傾向があるため、仕事離れ意識は時間の経過とともに大きく変化するものではなく、そうした意識を抱く層は職業キャリアの初期段階から継続して一定数存在しており、その背後には何らかの世代的な要因があるのではないかと考えられる。

なお、新設された3つの質問項目では、20歳代と30歳代で大きな傾向性の違いは見られず、全体的な回答傾向にほとんど差はないと言える。

（2）20歳代（2001年）と30歳代（2011年）との職業意識の2時点間比較

つぎに、30歳代の職業意識と彼ら彼女らの（社会的）諸属性との関係性について整理する。また、2001年の20歳代データとの比較から、どういった層でここ10年間の意識の変化がより大きく見られるかについても検討する。以下では、性別、学歴別、婚姻状況別、現職の就業形態別、そしてキャリア類型別に、現在の30歳代における職業意識を見る（図表3-3～図表3-6。図表中の※の付いた質問項目は新設項目であることを示している）。なお、2011年の30歳代と20歳代との職業意識の違い（肯定的回答のポイント差）については、本章末に掲載した【参考3】の図表を参照されたい。

図表3-3 30歳代の社会的属性別職業意識および2001年データとのポイント差
(その1)

	今の世の中、定職に就かなくても暮らしていける	若いうちは仕事よりも自分のやりたいことを優先させたい	いろいろな職業を経験したい	やりたい仕事なら正社員でもフリーターでもこだわらない	一つの企業に長く勤めるほうがよい	フリーターより正社員で働いたほうがトクだ	専門的な知識や技術を磨きたい	職業生活に役立つ資格を取りたい	ひとの役に立つ仕事をしたい
全体	28.0%	44.3%	47.5%	43.6%	71.1%	85.1%	92.6%	84.8%	87.7%
性別									
男性	28.4%	45.5%	45.1%	35.5%	70.4%	85.6%	93.2%	82.0%	88.0%
女性	27.6%	43.0%	50.1%	52.2%	71.8%	84.5%	91.9%	87.7%	87.3%
教育									
高卒	29.8%	46.2%	42.1%	43.6%	76.6%	81.7%	91.5%	81.7%	84.7%
専門・短大・高専卒	35.6%	48.4%	48.9%	39.9%	70.6%	81.3%	94.5%	85.4%	88.5%
大学・大学院卒	23.5%	41.3%	45.3%	25.8%	66.8%	90.0%	94.2%	81.6%	91.4%
中卒・高校中退	21.1%	50.9%	42.9%	52.6%	77.2%	86.0%	91.1%	82.5%	80.7%
高等教育中退	41.2%	58.8%	45.1%	47.1%	64.7%	82.4%	90.2%	74.5%	76.5%
婚姻									
高卒	25.7%	46.9%	56.5%	56.5%	75.8%	83.0%	89.2%	85.4%	82.6%
専門・短大・高専卒	28.1%	40.0%	50.5%	51.9%	71.2%	83.4%	91.8%	88.3%	87.2%
大学・大学院卒	28.7%	42.8%	43.0%	45.4%	64.9%	88.8%	96.0%	91.2%	91.2%
中卒・高校中退	26.3%	50.0%	55.3%	69.2%	87.2%	71.8%	87.2%	75.7%	81.6%
高等教育中退	24.0%	40.0%	44.0%	52.0%	88.0%	92.0%	84.0%	84.0%	100.0%
婚姻									
結婚している	27.0%	42.8%	43.3%	29.0%	71.8%	87.0%	94.1%	83.7%	89.7%
結婚していない	31.8%	50.0%	47.4%	49.2%	67.8%	82.6%	91.4%	77.7%	84.4%
婚姻									
結婚している	25.2%	39.9%	51.5%	52.0%	71.7%	85.4%	91.6%	87.9%	87.4%
結婚していない	33.9%	50.0%	47.6%	53.3%	71.2%	81.8%	92.1%	86.6%	86.9%
就業									
正社員(公務員含む)	24.8%	43.1%	43.8%	28.7%	73.0%	88.8%	93.5%	83.4%	88.3%
非典型雇用	41.6%	55.1%	56.2%	60.7%	76.4%	85.4%	93.3%	85.4%	86.4%
その他の就業	37.3%	50.3%	48.4%	52.9%	55.1%	71.5%	94.3%	75.2%	90.5%
無業・その他	36.8%	57.9%	21.1%	47.4%	68.4%	73.7%	73.7%	63.2%	63.2%
就業									
正社員(公務員含む)	22.4%	38.6%	44.5%	34.8%	73.9%	92.1%	95.2%	91.0%	88.9%
非典型雇用	29.5%	45.6%	53.4%	58.1%	73.5%	81.5%	89.6%	86.9%	85.5%
その他の就業	31.2%	40.4%	47.5%	64.8%	61.7%	81.4%	93.0%	84.4%	90.1%
無業・その他	28.6%	64.3%	71.4%	64.3%	64.3%	71.4%	100.0%	85.7%	92.9%

注: %は肯定的回答(「そう思う」+「ややそう思う」)の割合。網掛けは2001年調査の構成比に比べてポイントが増加したものの増減があるもの。太字は20ポイント以上の増減があるもの。二重下線は10以上20未満のポイントの増減があるもの。下線は5以上10ポイント未満の増減があるもの。

第1に、2時点間でのポイントの増減を見てみると、「一つの企業に長く勤めるほうがよい」、「フリーターより正社員で働いた方がトクだ」、「ひとの役に立つ仕事をしたい」

において、ほとんどの層でポイントの上昇がみられる（図表 3-3）。ここから、同一企業勤続志向や正社員志向、そして利他志向が、現在の 30 歳代においては高まっていると考えられる。その他の質問項目では、おおむね多くの層でポイントがマイナスとなっている。特に「フリーター共感」に関する質問項目で肯定的回答の増減が大きいことから、現在の 30 歳代は、20 歳代時点と比べて、フリーター共感意識の薄らいだ状態にあると言える。また、有名志向、現在志向、仕事への迷いといった意識も、ここ 10 年で大きく弱まっている（図表 3-4）。他方、「知識・技術や資格取得への意欲の強さ」（小杉 2001、p. 52）が 2001 年調査では指摘されていたが、本調査の 30 歳代でもそうした意欲の強さは維持されている（図表 3-3）。

第 2 に、性別に見ていくと、男女でポイント差が大きい（有意差あり。ただし $\alpha < 0.05$ ）のが、「将来は独立して自分の店や会社を持ちたい」、「有名になりたい」、「ひとよりも高い収入を得たい」、「できれば仕事はしたくない」、「やりたい仕事なら正社員でもフリーターでもこだわらない」、「職業生活に役立つ資格を取りたい」、「ほとんどの人は信頼できる」（＝一般的信頼感）、「自分は政府のすることに対して、それを左右する力はない」（＝政府への非力感）である。そのうち、後者 4 項目で女性の方が肯定的な回答割合は高くなっている。そのため、性別で比較した場合、女性より男性の方が栄達志向、仕事離れ意識が高いこと、他方、女性は男性よりも資格志向的で、就業形態へのこだわりは弱く、他者への一般的信頼感、政府への非力感が高いことが指摘できる。

第 3 に、学歴別に 30 歳代の職業意識を見ると、以下の諸点が見出された。まず、男性で学歴差が見られた項目が、フリーター共感（「今の世の中、定職に就かなくても暮らしていける」、「やりたい仕事なら正社員でもフリーターでもこだわらない」、「フリーターより正社員で働いたほうがトクだ」）、利他志向、独立志向、現在志向、政府に対する非力感である。フリーター共感意識、独立志向、現在志向、政治に対する非力感はどれも大学・大学院卒ほど低く、利他志向は学歴が高まるほど高くなっている。他方、女性で学歴差があらわれたのは、就業形態へのこだわりのなさ、同一企業勤続志向、専門志向、利他志向、仕事への迷い、「誰とでもすぐに仲良くなれる」（＝対人関係への評価）、一般的信頼感であった。就業形態へのこだわりのなさ、同一企業勤続志向は高卒であるほど高く、専門志向、利他志向、対人関係への評価、一般的信頼感は大学・大学院卒になるほど高くなっている。また、仕事への迷いは専門・短大・高専卒で比較的低く、高卒および高等教育中退層で若干高くなっている。

図表3-4 30歳代の社会的属性別職業意識および2001年データとのポイント差
(その2)

	将来は独立して自分の店や会社を持ちたい	有名になりたい	ひとよりも高い収入を得たい	将来のことを考えるよりも今を楽しく生きたい	自分に向いている仕事がない	できれば仕事はしたくない	誰とでもすぐに仲良くなれる※	ほとんどの人は信頼できる※	自分には政府のすることに対して、それを左右する力はない※	
全体	42.1%	22.3%	69.3%	30.9%	32.6%	29.9%	66.0%	44.2%	76.8%	
性別	男性	52.5%	29.7%	78.6%	31.4%	31.5%	33.3%	65.2%	41.9%	73.9%
	女性	31.0%	14.4%	59.3%	30.4%	33.9%	26.2%	66.9%	46.8%	79.9%
男性	高卒	53.9%	29.4%	74.9%	38.2%	33.2%	40.0%	67.7%	36.2%	80.4%
	専門・短大・高専卒	58.4%	30.1%	79.0%	31.5%	35.2%	28.3%	64.8%	43.8%	79.9%
	大学・大学院卒	45.3%	31.3%	81.2%	25.5%	28.6%	32.3%	63.9%	44.8%	68.2%
	中卒・高校中退	70.2%	22.8%	84.2%	40.0%	24.6%	35.1%	61.4%	29.8%	63.2%
	高等教育中退	60.8%	21.6%	64.7%	39.2%	41.2%	34.0%	62.7%	45.1%	86.3%
	女性	高卒	30.3%	12.9%	54.8%	34.0%	40.7%	28.6%	59.3%	41.3%
専門・短大・高専卒	28.6%	14.0%	60.4%	28.6%	27.5%	24.0%	68.8%	46.4%	80.5%	
大学・大学院卒	34.3%	17.2%	62.2%	27.2%	36.7%	25.5%	71.3%	57.0%	78.9%	
中卒・高校中退	43.6%	12.8%	64.1%	44.7%	33.3%	38.5%	59.0%	23.1%	84.2%	
高等教育中退	24.0%	12.0%	44.0%	28.0%	40.0%	24.0%	80.0%	32.0%	84.0%	
男性	結婚している	53.2%	31.5%	82.3%	27.0%	29.1%	33.0%	68.5%	43.2%	74.9%
	結婚していない	51.2%	25.8%	71.6%	40.6%	36.1%	34.7%	57.5%	39.0%	72.1%
女性	結婚している	29.5%	12.3%	60.7%	27.5%	32.0%	24.5%	69.7%	49.6%	79.8%
	結婚していない	34.2%	18.8%	57.9%	36.3%	39.0%	30.5%	59.6%	40.3%	80.1%
男性	正社員(公務員含む)	45.7%	29.0%	82.0%	29.8%	30.9%	33.9%	65.7%	43.9%	75.0%
	非典型雇用	54.5%	29.2%	56.2%	40.4%	47.2%	37.5%	60.7%	36.0%	75.3%
	その他の就業	85.2%	35.4%	77.8%	32.7%	21.7%	30.4%	69.0%	35.9%	67.9%
	無業・その他	52.6%	10.5%	52.6%	42.1%	63.2%	15.8%	31.6%	36.8%	73.7%
女性	正社員(公務員含む)	23.7%	14.8%	64.6%	28.6%	37.5%	29.9%	63.9%	47.4%	81.4%
	非典型雇用	28.4%	11.6%	56.8%	32.2%	34.9%	27.6%	67.4%	47.0%	81.4%
	その他の就業	53.2%	23.9%	59.6%	28.2%	20.4%	14.8%	71.8%	46.5%	71.1%
	無業・その他	57.1%	14.3%	42.9%	21.4%	57.1%	14.3%	64.3%	28.6%	84.6%

注: %は肯定的回答(「そう思う」+「ややそう思う」)の割合。網掛けは2001年調査の構成比に比べてポイントが増加したもの。太字は20ポイント以上の増減があるもの。二重下線は10以上20未満のポイントの増減があるもの。下線は5以上10ポイント未満の増減があるもの。

第4に、婚姻状況別に30歳代の職業意識を検討すると、男女ともに、現在結婚していない方が、現在志向、やりたいこと志向、仕事への迷いが高くなっていることがわかる。対人関係に関しては、男女ともに、既婚者の方が肯定的回答が多い。つづいて男女別に見ていくと、男性の場合、就業形態へのこだわりのなさは結婚していない層ほど高く、正社員志向、資格志向、利他志向、高収入志向は既婚者層ほど高い傾向が、女性の場合、働き方の相対化意識、有名志向への肯定的回答が結婚していない層ほど高く、一般的信頼感には既婚者ほど高くなる傾向がある。また、有名志向に関しては、男女で傾向が異なり、男性では既婚者ほど肯定的回答が多くなっている。

では、第5に、現職の就業形態別に見た場合どうだろうか。男女ともに、就業形態別に差が見られたのが、つぎの7項目、すなわち多職経験志向、就業形態へのこだわりのなさ、独立志向、同一企業勤続志向、正社員志向、専門志向、仕事への迷いであった。しかし、男女ともに就業形態別に差があったとはいえ、性別でカテゴリー間の関係は異なる。例えば、就業形態へのこだわりのなさは、男性では非典型雇用で最も高いのに対して、女性では「その他の就業」で高い割合（64.8%）となっている。仕事への迷いに関しても、男性では非典型雇用が47.2%と、「無業・その他」について高いが、女性の場合、「無業・その他」のつぎに高い割合となっているのが正社員層であるように、男女で違いが見られる。そのほかに男女それぞれで就業形態別に有意な差が見られた項目は、男性では働き方の相対化意識、資格志向、高収入志向、対人関係、女性では有名志向、仕事離れ、政府に対する非力感である。特徴的な点としては、男性内では、正社員で働き方の相対化意識がかなり低く、高収入志向への肯定的回答が最も高いのに対して、非典型雇用では働き方の相対化意識および資格志向への肯定度合いが他の就業形態と比較して最も高くなっているが、高収入志向が「無業・その他」と同程度に低く、対人関係への評価も（「無業・その他」よりはかなり高いと言えるが、）正社員や「その他の就業」と比べると、比較的低くなっていることである。他方、女性に特徴的な点として、有名志向は「その他の就業」で最も高く、非典型雇用で最も低いこと、仕事離れ意識は正社員で最も高く、27.6%であること（男性の場合、非典型雇用で最も高く、37.5%である）、政府に対する非力感は正社員、非典型雇用と同程度であるが、「その他の就業」で10ポイントほど低く見られること等が指摘できる。

最後に、キャリア類型別に、30歳代の職業意識を見ていこう（図表3-5および図表3-6）。まず、キャリア類型別に見る男性のおおまかな傾向としては、1）「正社員一貫」で同一企業勤続志向が高く、就業形態へのこだわりのなさが低いこと、2）「正社員から非典型」で働き方の相対化意識が高いが、同一企業勤続志向も高く、高収入志向が弱いこと、他方、3）「正社員一時他形態」では高収入を得たいという意識が強いこと、4）「非典型一貫」で有名志向および仕事離れの意識が強いこと、5）「自営・家業」で独立志向および有名志向が高く、同一企業勤続志向および政府に対する非力さが低いこ

と、そして6)「現在無業」層は現在志向であり、仕事への迷いが強く、多職経験への肯定的意識や専門志向、資格志向、利他志向、そして対人関係への肯定的評価が相対的に低いこと等が指摘できる。つぎに、女性の場合の特徴としては、1)「正社員一貫」で一般的信頼感が高く、働き方の相対化意識や独立志向が弱いこと、2)「正社員転職」で利他志向が強く、やりたいこと志向が弱いこと、3)「正社員から非典型」で有名志向が弱いこと、4)「正社員一時他形態」で正社員志向、資格志向、そして政府に対する非力感が強いこと、5)「自営・家業」では就業形態へのこだわりのなさや対人関係への評価が高く、仕事への迷いが弱いこと、そして6)「現在無業」の層はやりたいこと志向および専門志向であり、多職経験志向が強くなっていること、他方で正社員志向、現在志向、仕事離れの意識は弱く、高収入志向や一般的信頼感も低くなっていること等が挙げられる。特に男女通じてカテゴリー間での最大値と最小値の差が50ポイント以上であったのは、多職経験志向と独立志向であり、前者は女性無業層(71%)と男性無業層(21%)の間に50ポイントの差が、後者は「自営・家業」男性(85%)と「正社員一貫」女性(15%)の間に70ポイントもの差がある。また、有名志向は全体的に肯定的割合が低いため、差自体はこれらに比べると大きくはないものの、「非典型一貫」男性および「自営・家業」男性(ともに35%)と「正社員から非典型」女性(9%)との間に26ポイントの差が生じている。その他、同じ性別内でのカテゴリー間の比較をすれば、「正社員転職」男性層の働き方の相対化意識、やりたいこと志向、現在志向は男性内部では最も低く、対人関係への評価は最も高いこと、女性の「非典型一貫」は女性内では働き方の相対化意識と現在志向が最も高く、専門志向が最も低い層であること、また「他形態から正社員」女性は仕事離れ意識が最も高く、対人関係への評価が最も低いことが見てとれる。

図表 3-5 30歳代のキャリア類型別職業意識および2001年データとのポイント差
(その1)

		今の世の中、定職に就かなくても暮らしていける	若いうちは仕事よりも自分のやりたいことを優先させたい	いろいろな職業を経験したい	やりたい仕事なら正社員でもフリーターでもこだわらない	一つの企業に長く勤めるほうがよい	フリーターより正社員で働いたほうがくだ	専門的な知識や技術を磨きたい	職業生活に役立つ資格を取りたい	ひとの役に立つ仕事をしたい	
男性	正社員一貫	23.2%	41.0%	40.8%	22.3%	79.9%	92.8%	94.9%	82.9%	92.2%	
	正社員転職	23.2%	40.0%	43.8%	28.0%	66.4%	89.5%	92.7%	83.2%	87.7%	
	正社員から非典型	48.6%	57.1%	57.1%	57.1%	80.0%	82.9%	94.3%	82.9%	91.4%	
	正社員一時他形態	30.4%	48.1%	40.5%	38.0%	64.1%	83.5%	93.7%	83.5%	79.7%	
	非典型一貫	39.2%	52.9%	54.9%	62.7%	74.5%	86.3%	94.1%	88.2%	82.0%	
	他形態から正社員	28.2%	49.7%	50.9%	36.2%	73.6%	83.4%	92.0%	84.7%	85.9%	
	正社員										
	自営・家業	37.3%	50.3%	48.4%	52.9%	55.1%	71.5%	94.3%	75.2%	90.5%	
	現在無業	36.8%	57.9%	21.1%	47.4%	68.4%	73.7%	73.7%	63.2%	63.2%	
女性	正社員一貫	17.9%	35.9%	32.5%	29.3%	79.5%	93.2%	95.7%	90.6%	86.3%	
	正社員転職	29.4%	35.3%	52.9%	35.3%	66.7%	92.0%	92.2%	88.2%	96.0%	
	正社員から非典型	26.7%	41.7%	53.0%	53.7%	73.6%	85.0%	91.0%	88.3%	85.3%	
	正社員一時他形態	28.0%	40.0%	60.0%	42.0%	68.0%	94.0%	96.0%	96.0%	82.0%	
	非典型一貫	33.8%	51.2%	54.2%	64.0%	73.7%	77.9%	87.8%	85.0%	86.4%	
	他形態から正社員	21.1%	43.7%	46.5%	37.5%	75.0%	88.9%	95.8%	90.0%	93.0%	
	正社員										
	自営・家業	31.2%	40.4%	47.5%	64.8%	61.7%	81.4%	93.0%	84.4%	90.1%	
	現在無業	28.6%	64.3%	71.4%	64.3%	64.3%	71.4%	100.0%	85.7%	92.9%	

注: %は肯定的回答(「そう思う」+「ややそう思う」)の割合。網掛けは2001年調査の構成比に比べてポイントが増加したものの、太字は20ポイント以上の増減があるもの。二重下線は10以上20未満のポイントの増減があるもの。下線は5以上10ポイント未満の増減があるもの。

さらに、男女でキャリア類型別職業意識の比較をしてみよう(図表3-5および図表3-6)。まず、男女の正社員一貫層、正社員転職層、「他形態から正社員」層で男女間でのポイント差が大きい(10ポイント以上)のが、独立志向、有名志向、高収入志向であり、特に独立志向は「他形態から正社員」層の男性で約30ポイント、高収入志向は正社員一貫層の男性で約20ポイント、同カテゴリーの女性よりも高くなっている。つぎに、「正社員から非典型」層における男女間でのポイント差が大きいのが、働き方の相対化意識、やりたいこと志向、独立志向、高収入志向、仕事への迷い、一般的信頼感であり、特に独立志向は男性の方が約35ポイントも高くなっている。また、高収入志向と一般的信頼感に関しては「正社員から非典型」女性の方が同カテゴリーの男性と比べて肯定度が高くなっている。「正社員から他形態」層においても、男女間でポイント差の大きい項目が多数見られる。具体的には、多職経験志向、正社員志向、資格志向、対人関係への評価において「正社員から他形態」女性の肯定的意識が同男性をかなり上回っており、独立志向、高収入志向、現在志向、仕事離れにおいては「正社員から他形態」男性の方

が肯定度合が高くなっている。非典型一貫に関しては、男女でポイント差が大きな項目は独立志向と有名志向のみであり、ともに男性の方が20ポイントほど高い傾向がある。

「自営・家業」層に関しては、就業形態へのこだわりのなさ、独立志向、有名志向、高収入志向、仕事離れ、一般的信頼感でカテゴリ内での男女差が大きく、就業形態へのこだわりのなさ、および一般的信頼感で「自営・家業」女性のポイントがより高くなっていることが特徴的である。そして、「現在無業」層であるが、この層ではかなり男女差の大きな項目が多く見られた。すなわち、多職経験志向、就業形態へのこだわりのなさ、専門志向、資格志向、利他志向、対人関係への評価、政府に対する非力感では、「現在無業」女性の方が肯定的意識がかなり高く（10ポイント以上の差）、現在志向では「現在無業」男性の肯定度合が同女性よりも約20ポイント高くなっているのである。特に「現在無業」男女間での差が大きいのが多職経験志向であり、女性の方が50ポイント以上も肯定的意識が高い。

図表3-6 30歳代のキャリア類型別職業意識および2001年データとのポイント差
(その2)

	将来は独立して自分の店や会社を持ちたい	有名になりたい	ひとよりも高い収入を得たい	将来のことを考えるよりも今を楽しく生きたい	自分に向いている仕事からわかない	できれば仕事はしたくない	誰とでもすぐ仲良くなれる※	ほとんどの人は信頼できる※	自分には政府のすることに対して、それを左右する力はない※	
男性	正社員一貫	32.5%	27.0%	82.3%	29.5%	30.7%	36.5%	65.9%	47.8%	75.4%
	正社員転職	51.8%	32.3%	84.5%	26.5%	27.7%	31.4%	70.0%	40.9%	75.0%
	正社員から非典型	61.8%	17.1%	42.9%	37.1%	40.0%	34.3%	65.7%	37.1%	74.3%
	正社員一時他形態	55.7%	27.8%	87.3%	32.9%	32.9%	39.2%	50.6%	39.7%	79.7%
	非典型一貫	51.0%	35.3%	64.7%	41.2%	49.0%	42.0%	56.9%	35.3%	76.5%
	他形態から正社員	53.4%	27.8%	76.1%	34.8%	35.0%	30.1%	65.6%	42.6%	71.8%
	自営・家業	85.2%	35.4%	77.8%	32.7%	21.7%	30.4%	69.0%	35.9%	67.9%
	現在無業	52.6%	10.5%	52.6%	42.1%	63.2%	15.8%	31.6%	36.8%	73.7%
女性	正社員一貫	15.4%	10.3%	62.4%	30.8%	36.8%	30.8%	64.1%	54.3%	82.1%
	正社員転職	29.4%	19.6%	68.6%	23.5%	35.3%	25.5%	62.7%	41.2%	80.4%
	正社員から非典型	27.0%	9.0%	57.7%	27.5%	30.7%	24.3%	70.0%	49.2%	83.3%
	正社員一時他形態	36.0%	24.0%	76.0%	22.0%	36.0%	20.0%	68.0%	40.0%	88.0%
	非典型一貫	30.0%	15.1%	55.4%	38.5%	41.3%	31.9%	64.8%	44.1%	78.9%
	他形態から正社員	23.6%	12.5%	56.9%	33.8%	41.7%	37.5%	62.5%	46.5%	76.1%
	自営・家業	53.2%	23.9%	59.6%	28.2%	20.4%	14.8%	71.8%	46.5%	71.1%
	現在無業	57.1%	14.3%	42.9%	21.4%	57.1%	14.3%	64.3%	28.6%	84.6%

注：％は肯定的回答（「そう思う」＋「ややそう思う」）の割合。網掛けは2001年調査の構成比に比べてポイントが増加したもの。太字は20ポイント以上の増減があるもの。二重下線は10以上20未満のポイントの増減があるもの。下線は5以上10ポイント未満の増減があるもの。

2. 仕事に関する意識の規定要因——20歳代と30歳代との比較を通して

以上、諸属性別に、30歳代の職業意識を見てきた。では、30歳代の職業意識を規定する要因として、何が最も影響力があるのだろうか。本節では、以上とりあげた質問項目のうち、2001年の20歳代と比較して、ポイントの増減が比較的大きかった2項目、すなわち、やりたいこと志向（「若いうちは仕事よりも自分のやりたいことを優先させたい」）と同一企業勤続志向（「一つの企業に長く勤めるほうがよい」）の規定要因について、二項ロジスティック回帰分析による検証をおこなう。また、2001年および2011年の20歳代データを用いて、職業意識の規定要因に違いは見られるのかについても検討する。独立変数としては、以上扱ってきた諸属性、および週当たりの労働時間と個人の年収（世帯収入ではない）を投入する。分析に使用する変数に関しては、本章末の【参考1】を参照されたい。

まず、やりたいこと志向の規定要因について、2001年時点の20歳代全体では、就業形態（正社員ダミー）、婚姻状況（結婚ダミー）ともに負の効果を持っており、実家が豊かかどうかは5%水準で正の効果を示している（図表3-7）。他方、30歳代全体では、性別（男性ダミー）が正の効果、婚姻状況が負の効果を持っているが、20歳代で統計的に有意となっていた就業形態および実家の豊かさの効果は見られない（図表3-8）。男女別に見ると、男性では学歴（大卒以上ダミー）のみ負の効果を持つが、女性の場合は婚姻状況が負の効果、労働時間が相対的に短いこと（労働時間短いダミー）と実家の豊かさがやりたいこと志向に対して正の効果を示している。女性でのみ20歳代から継続して婚姻状況の影響は残っているものの、男女でその規定要因に差異が生じてきており、30歳代でやりたいこと志向を支持する層はより限定的となってきたことがわかる。ただし、30歳代男性のみのモデルでは、モデル適合度が10%水準以下で有意ではないため、分析結果の解釈には注意が必要である。

図表 3-7 20 歳代（2001 年）のやりたいこと志向の規定要因
（ロジスティック回帰分析）

独立変数	全体		男性		女性	
	偏回帰係数	オッズ比	偏回帰係数	オッズ比	偏回帰係数	オッズ比
男性ダミー	.045	1.046	—	—	—	—
大卒以上ダミー	-.162	.850	.056	1.057	-.459	.632
正社員ダミー	-.644	.525 **	-.626	.535 *	-.593	.553 +
結婚ダミー	-.978	.376 ***	-1.023	.359 ***	-.997	.369 *
労働時間長いダミー	.101	1.106	-.145	.865	.426	1.531
労働時間短いダミー	-.127	.880	-.323	.724	.049	1.050
年収高いダミー	-.110	.896	-.241	.786	.025	1.025
年収低いダミー	-.304	.738	-.515	.597	-.188	.828
父高卒超ダミー	-.231	.794	-.085	.918	-.323	.724
母高卒超ダミー	.285	1.330	.118	1.126	.428	1.534
実家豊かダミー	.322	1.380 *	.270	1.310	.346	1.413
(定数)	1.524	***	1.795	***	1.342	***
Nagelkerke決定係数	0.074		0.095		0.070	
モデル適合度	p=0.000		p=0.000		p=0.010	
N	983		506		477	

注：+：p<0.10、*：p<0.05、**：p<0.01、***：p<0.001。

図表 3-8 30 歳代（2011 年）のやりたいこと志向の規定要因
（ロジスティック回帰分析）

独立変数	全体		男性		女性	
	偏回帰係数	オッズ比	偏回帰係数	オッズ比	偏回帰係数	オッズ比
男性ダミー	.410	1.507 **	—	—	—	—
大卒以上ダミー	-.177	.838	-.332	.718 *	.026	1.027
正社員ダミー	-.032	.968	.011	1.011	-.055	.946
結婚ダミー	-.321	.725 **	-.085	.918	-.563	.569 **
労働時間長いダミー	-.018	.982	-.117	.890	.128	1.137
労働時間短いダミー	.269	1.308	.097	1.102	.437	1.548 *
年収高いダミー	-.170	.843	-.066	.936	-.453	.635
年収低いダミー	.014	1.014	.400	1.492	-.098	.907
父高卒超ダミー	.065	1.067	.092	1.096	.019	1.019
母高卒超ダミー	-.154	.857	-.186	.830	-.123	.884
実家豊かダミー	.166	1.181	.048	1.049	.302	1.352 +
(定数)	-.234	.791	.107	1.113	-.208	.813
Nagelkerke決定係数	0.021		0.021		0.038	
モデル適合度	p=0.018		p=0.281		p=0.027	
N	1458		747		711	

注：+：p<0.10、*：p<0.05、**：p<0.01、***：p<0.001。

さらに、2011 年の 20 歳代と比較してみよう（図表 3-9）。2011 年の 20 歳代の場合、全体では、学歴、婚姻状況と現職の就業形態（10%水準）が負の効果を示しているが、男女別に見ると違いが見られ、女性でのみ婚姻状況の影響が残るが、男性では婚姻状況の効果は消えている。学歴は男性で 10%水準、女性では 1%水準でやりたいこと志向に対して負の効果を示している。男性に関しては 2011 年の 20 歳代と 30 歳代で大きな違い

は見られないが、女性では、20歳代（2011年）でのみ学歴の効果があらわれており、大卒以上の女性層でのやりたいこと志向が減退し、現在の20歳代ではやりたいこと志向を抱く女性層に学歴による偏りが生じてきているのではないかと考えられる。

図表3-9 20歳代（2011年）のやりたいこと志向の規定要因
（ロジスティック回帰分析）

独立変数	全体		男性		女性	
	偏回帰係数	オッズ比	偏回帰係数	オッズ比	偏回帰係数	オッズ比
男性ダミー	.042	1.042	—	—	—	—
大卒以上ダミー	-.402	.669 **	-.336	.715 +	-.503	.605 **
正社員ダミー	-.265	.767 +	-.223	.800	-.300	.741
結婚ダミー	-.382	.682 *	-.239	.787	-.645	.525 **
労働時間長いダミー	-.050	.951	.036	1.036	-.143	.867
労働時間短いダミー	.081	1.084	.392	1.481	-.100	.905
年収高いダミー	-.054	.947	.124	1.132	-.236	.790
年収低いダミー	.004	1.004	.027	1.027	.008	1.008
父高卒超ダミー	.108	1.114	.120	1.127	.114	1.120
母高卒超ダミー	.094	1.099	.140	1.150	.057	1.059
実家豊かダミー (定数)	.011	1.011 *	.068	1.070	-.028	.972
	.440		.135		.730	**
Nagelkerke決定係数	0.031		0.025		0.051	
モデル適合度	p=0.001		p=0.248		p=0.002	
N	1400		676		724	

注：+：p<0.10、*：p<0.05、**：p<0.01、***：p<0.001。

つぎに、同一企業勤続志向の規定要因としては、以下の諸点が指摘できる。まず、2001年時点（図表3-10）では、学歴（大卒以上ダミー）、現職の就業形態（正社員ダミー）、婚姻状況（結婚ダミー）が同一企業勤続志向に効果を持つことがわかる。ただし、大卒以上ダミーは負の効果を示している。また、母学歴（母高卒超ダミー）の影響も10%水準では有意となっている。他方、2011年の30歳代では少し傾向が変わり、非大卒である方が（オッズ比：約0.6倍から約0.7倍へ）、正社員である方が（オッズ比：約1.5倍から約2.2倍へ）、そして年収が比較的高くはない方が、同一企業勤続志向になる傾向が見られる（図表3-11）。また、10%水準では、結婚の有無（オッズ比：約1.7倍から約1.3倍へ）、労働時間が比較的長いことも有意となっている。男女別に見ると、男性の場合、非大卒の方が（オッズ比：約0.6倍から約0.7倍へ）、正社員の方が（約1.3倍から約2.3倍へ）、また既婚の方が（オッズ比：約2.2倍から約1.5倍へ）、女性の場合、正社員の方が（オッズ比：2時点とも約2倍）、そして年収が比較的高くない方（オッズ比：約1倍から約0.5倍へ）。ただし、2001年の場合、年収が低いことが影響しており、オッズ比1.8倍が、同一企業勤続志向になる確率が高く見られる。また、30歳代では、男性の場合、労働時間（短いこと）が、女性の場合、学歴と実家の豊かさが10%水準で影響している。これらの結果から、「一つの企業に長く勤めるほうがよい」と考えている層は、

高学歴で高収入といった、労働市場において相対的に優位な位置にあるだろう正社員層ではなく、高卒以下の学校段階で卒業し正社員となった、比較的年収の低い層であることが見出された。また、男性の場合、現在の婚姻状況が効果を示していることから、自らのキャリア向上を目指し転職を志向するのではなく、一つの会社で安定的に雇用されることが家族を養っていくためには重要であるという考えが垣間見られる。

図表 3-10 20 歳代（2001 年）の同一企業勤続志向の規定要因
（ロジスティック回帰分析）

独立変数	全体		男性		女性	
	偏回帰係数	オッズ比	偏回帰係数	オッズ比	偏回帰係数	オッズ比
男性ダミー	.119	1.126	—	—	—	—
大卒以上ダミー	-.471	.624 **	-.479	.619 *	-.431	.650 +
正社員ダミー	.416	1.516 *	.238	1.269	.663	1.940 *
結婚ダミー	.510	1.665 *	.773	2.166 **	.171	1.186
労働時間長いダミー	.141	1.151	.019	1.019	.367	1.443
労働時間短いダミー	.128	1.136	.237	1.268	.087	1.091
年収高いダミー	.091	1.095	.121	1.128	-.031	.969
年収低いダミー	.205	1.227	-.109	.896	.586	1.796 *
父高卒超ダミー	.076	1.079	-.018	.982	.173	1.189
母高卒超ダミー	-.310	.734 +	-.159	.853	-.499	.607 *
実家豊かダミー (定数)	.044	1.045	.066	1.068	.007	1.007
Nagelkerke決定係数	0.047		0.061		0.052	
モデル適合度	p=0.000		p=0.008		p=0.040	
N	984		507		477	

注：+：p<0.10、*：p<0.05、**：p<0.01、***：p<0.001。

図表 3-11 30 歳代（2011 年）の同一企業勤続志向の規定要因
（ロジスティック回帰分析）

独立変数	全体		男性		女性	
	偏回帰係数	オッズ比	偏回帰係数	オッズ比	偏回帰係数	オッズ比
男性ダミー	.010	1.010	—	—	—	—
大卒以上ダミー	-.363	.696 **	-.389	.677 *	-.354	.702 +
正社員ダミー	.792	2.208 ***	.848	2.335 ***	.707	2.028 **
結婚ダミー	.255	1.290 +	.384	1.468 *	.156	1.169
労働時間長いダミー	-.248	.780 +	-.255	.775	-.155	.856
労働時間短いダミー	.006	1.006	.795	2.215 +	-.197	.821
年収高いダミー	-.353	.703 *	-.255	.775	-.753	.471 *
年収低いダミー	.155	1.167	.142	1.153	.144	1.155
父高卒超ダミー	-.039	.962	-.034	.967	-.034	.966
母高卒超ダミー	-.199	.819	-.244	.784	-.144	.866
実家豊かダミー (定数)	-.078	.925	.148	1.160	-.335	.715 +
Nagelkerke決定係数	0.045		0.065		0.049	
モデル適合度	p=0.000		p=0.000		p=0.006	
N	1460		749		711	

注：+：p<0.10、*：p<0.05、**：p<0.01、***：p<0.001。

図表 3-12 20 歳代（2011 年）の同一企業勤続志向の規定要因
（ロジスティック回帰分析）

独立変数	全体		男性		女性	
	偏回帰係数	オッズ比	偏回帰係数	オッズ比	偏回帰係数	オッズ比
男性ダミー	-.169	.845	—	—	—	—
大卒以上ダミー	-.206	.814	-.274	.760	-.147	.863
正社員ダミー	.261	1.298 +	.066	1.068	.432	1.540 *
結婚ダミー	.245	1.278	-.018	.982	.664	1.944 *
労働時間長いダミー	-.227	.797 +	-.157	.855	-.288	.750
労働時間短いダミー	.157	1.171	-.094	.910	.306	1.359
年収高いダミー	.180	1.198	.285	1.329	.143	1.154
年収低いダミー	.067	1.070	.221	1.247	-.054	.947
父高卒超ダミー	-.406	.666 **	-.538	.584 **	-.271	.763
母高卒超ダミー	.100	1.105	.092	1.096	.088	1.092
実家豊かダミー	-.112	.894	-.035	.966	-.171	.842
(定数)	.929	***	.931	**	.746	**
Nagelkerke決定係数	0.027		0.031		0.038	
モデル適合度	p=0.004		p=0.116		p=0.031	
N	1402		679		723	

注：+：p<0.10、*：p<0.05、**：p<0.01、***：p<0.001。

さらに、2011 年の 20 歳代では（図表 3-12）、同一企業勤続志向の規定要因として、全体では父学歴（父高卒超ダミー）、就業形態（10%水準）と労働時間（長い場合のみ、10%水準で負の効果）が効果を持っており、女性に限定した場合は就業形態と婚姻状況が正に影響しているという結果が得られ、30 歳代とは違った傾向が見られる。そのため、2011 年の 20 歳代における同一企業勤続意識は、男性の場合、父親の存在といった出身背景の影響が、女性の場合、現在の就業・生活状況等がより強く影響していることが推察される。

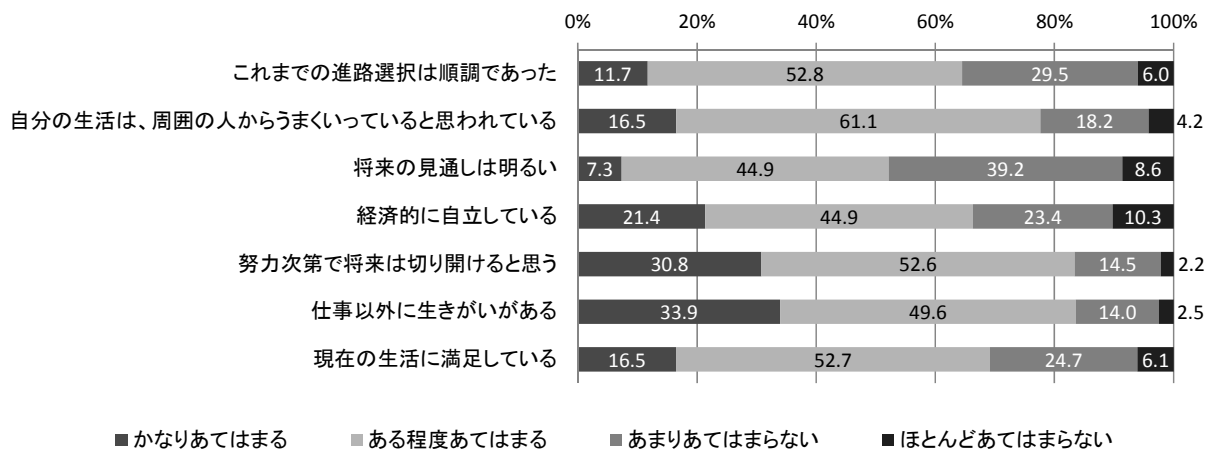
第 3 節 30 歳代の生活に対する意識

1. 30 歳代の生活意識の傾向と 2 時点間比較

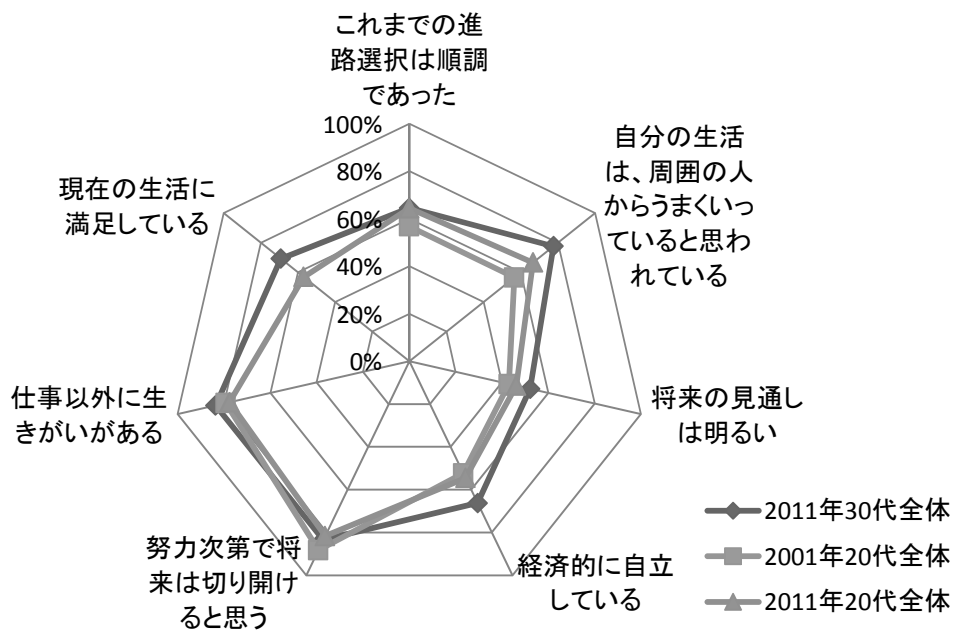
（1）30 歳代全体の生活意識の傾向

本節では、30 歳代の生活に関する意識について検討する。まず、30 歳代の生活意識の全体的傾向性について見る。生活意識に関する質問項目への回答分布を図示したのが、図表 3-13 である。どの質問項目でも肯定的回答（「かなりあてはまる」+「ある程度あてはまる」）の割合は 5 割を超えており、全体的に見て 30 歳代の生活への肯定度合は高いと言えるが、特に高いもの（7 割以上）としては、「仕事以外に生きがいがある」（83.6%）、「努力次第で将来は切り開けると思う（=努力志向）」（83.4%）、そして「自分の生活は、周囲の人からうまくいっていると思われる」（77.6%）が挙げられる。2001 年調査（20 歳代）では全体で半数以下であった「将来の見通しは明るい」と「経済的に自立している」への肯定的回答はともに 5 割を上回るようになっている。

図表 3-13 30 歳代の生活意識



図表 3-14 生活意識の全体的傾向性の比較



つぎに、前節同様、2001年および2011年の20歳代のデータとの比較から、2011年の30歳代全体の生活意識の相対的な特徴を見る。図表3-14に、上記3者の生活意識の肯定的回答割合（「かなりあてはまる」＋「ある程度あてはまる」の％）を整理している。なお、「現在の生活に満足している」は、2001年調査では設けられていないため、2者間の比較となっている。図表3-14を見ると、ほとんどの生活意識に関する質問項目で、30歳代の肯定的回答が多くなっており、特に「自分の生活は、周囲の人からうまくいっていると思われる」と「経済的に自立している」で20歳代との差が開いている。ま

た、30歳代では「将来の見通しは明るい」および「現在の生活に満足している」（＝生活満足度）に肯定的に回答する割合も相対的に高く、20歳代と30歳代で差が見られる。だが、努力志向への肯定割合に関しては、2001年の20歳代が最も高く、2011年の30歳代、20歳代がそれに続く。努力志向は、どの世代を見ても8割以上とかなり強いと言えるが、ここ10年間で若干の弱まりが見られる。

（2）20歳代（2001年）と30歳代（2011年）との生活意識の2時点間比較

つづいて、30歳代の生活意識と彼ら彼女らの（社会的）諸属性の関係性について整理する。以下では、性別、学歴別、婚姻状況別、現職の就業形態別、そしてキャリア類型別に、また2001年の20歳代データとの比較を通して、現在の30歳代における生活意識を見る（図表3-15および図表3-16。図表中の※の付いた質問項目は新設項目であることを示している）。なお、2011年の30歳代と20歳代との生活意識の違い（肯定的回答のポイント差）については、本章末に掲載した【参考3】の図表を参照されたい。

第1に、2001年データと比較した場合、「努力次第で将来は切り開ける」において、ほとんどの層でポイントがマイナスとなっており、努力志向の弱まりが見られる。特に高等教育中退層や非正社員層の男女、キャリア類型別には男性の「正社員から非典型」層や無業層でポイントの減少が大きくなっている。ただし、「正社員転職」女性の努力志向は20歳代の同一層に比べて10ポイント以上の高まりを見せていることは特筆すべきであろう。他方、「自分の生活は、周囲の人からうまくいっていると思われる」への肯定的回答に関しては、男性ではどの層においてもポイントが上昇している。「これまでの進路選択は順調であった」「将来の見通しは明るい」に関しても、男性の肯定的回答の割合は概ね高まっているが、男性の「将来の見通しは明るい」でのポイントの増減に関しては正社員と非典型の間で符号が逆になっており、ともに2001年よりも10ポイント以上20ポイント未満の増減があることから、両者に意識の開きが生じているのではないかと推察される。女性の場合は「無業・その他」の層で20歳代の同一層と比較して大きなポイントの減少が見られ、それ以外の層（正社員や非典型雇用、「その他の就業」との間の溝が広がっているのではないかと考えられる。また、「経済的に自立している」では男性でポイントの高まりが顕著に見られるが、女性正社員でも「経済的に自立している」と回答する層はかなり多くなっており、特に「正社員転職」女性の場合、それに加えて「仕事以外に生きがいがある」でも20歳代同一層に比べてかなりのポイント増加（20ポイント以上）が見られる。30歳代正社員女性の生活意識におけるポイントの高さは顕著である。

第2に、男女別に見ると、「経済的に自立している」男性の割合は女性に比べて20ポイントも多く、かなりの差が開いている。だが、そのかわり女性の場合は「将来の見通しは明るい」、「仕事以外に生きがいがある」、「現在の生活に満足している」への肯定的

回答割合が高く、男女で統計的に有意な差が生じている。2001年調査において「仕事を越えた生活全体の面では女性の方が満足感が高い」（小杉 2001、p.72）と指摘されたのと同様な結果が本調査からも得られたと言える。

第3に、学歴による生活意識の違いを比較すると、男性の場合、「仕事以外に生きがいがある」以外の項目で、大卒・大学院卒である方が自らの生活に関して肯定的に回答する傾向がある。男性で「仕事以外に生きがいがある」と回答した割合が最も多かったのが高等教育中退層であり、専門・短大・高専卒、大学・大学院卒がそれに続いている。しかし、それ以外の生活に関する質問項目では中退者層の肯定度合は相対的に低い。また、高卒者層でも「これまでの進路選択は順調であった」および「自分の生活は、周囲の人からうまくいっていると思われる」への肯定的回答は中退者層と同程度に低い割合となっている。他方、女性の場合も概ね高卒から大学・大学院卒へと学歴が高まるほど生活に関する意識は肯定的になっていると言える。さらに、女性の中退者層に目を向けると、「これまでの進路選択は順調であった」、「自分の生活は、周囲の人からうまくいっていると思われる」、「将来の見通しは明るい」での肯定度合は非中退者に比べて一段と低く、高等教育中退女性の生活に対する肯定度合の低さがうかがえる。しかし、「経済的に自立している」、「努力次第で将来は切り開ける」、「仕事以外に生きがいがある」等の他の質問項目では、女性中退者層、特に高等教育中退者の肯定的回答は大学・大学院卒並かそれ以上に高い割合で見られる。

第4に、現在の婚姻状況別に検討すると、男女ともに現在結婚している層ほど生活意識に関する肯定度合は高い。例外として経済的自立に関してのみ、女性の現在結婚していない層で、その肯定的回答が既婚者のそれを5ポイントほど上回っている（ただし、統計的に有意な差はない）。特に婚姻状況別でポイント差が大きいのが「自分の生活は、周囲の人からうまくいっていると思われる」であり、男女ともに約20ポイントの差が生じている。また、男性の場合、経済的に自立しているか否かにも20ポイント程度の差が見られ、これは経済的な安定が結婚の決め手のひとつとなっているからではないかと考えられる。

図表3-15 30歳代の社会的属性別生活意識および2001年データとのポイント差

		これまでの進路選択は順調であった	自分の生活は、周囲の人からうまくいっていると思われる	将来の見通しは明るい	経済的に自立している	努力次第で将来は切り開けると思う	仕事以外に生きがいがある	現在の生活に満足している※
全体		64.5%	77.6%	52.2%	66.3%	83.4%	83.6%	69.2%
性別	男性	62.8%	77.3%	49.9%	76.8%	84.8%	80.5%	67.1%
	女性	66.3%	78.0%	54.6%	55.0%	81.8%	86.9%	71.4%
男性	高卒	57.0%	71.6%	46.2%	69.5%	80.9%	76.7%	60.6%
	専門・短大・高専卒	66.2%	77.6%	43.8%	72.6%	83.9%	82.2%	59.8%
	大学・大学院卒	69.8%	82.3%	58.0%	85.8%	88.3%	80.9%	76.1%
	中卒・高校中退	46.4%	70.2%	36.8%	59.6%	77.2%	75.4%	54.4%
	高等教育中退	33.3%	60.0%	35.3%	60.8%	78.4%	84.3%	52.9%
	女性	高卒	58.5%	71.8%	49.0%	45.6%	78.4%	86.7%
専門・短大・高専卒	70.1%	82.0%	57.5%	55.5%	82.5%	83.3%	72.3%	
大学・大学院卒	74.0%	83.6%	56.8%	63.5%	84.0%	91.2%	74.4%	
中卒・高校中退	51.3%	56.4%	50.0%	46.2%	76.9%	89.7%	69.2%	
高等教育中退	40.0%	56.0%	40.0%	64.0%	84.0%	96.0%	72.0%	
男性	結婚している	67.8%	84.6%	56.2%	83.0%	87.4%	85.4%	72.8%
	結婚していない	52.6%	61.2%	37.4%	63.3%	78.8%	70.3%	55.0%
女性	結婚している	69.1%	83.7%	58.8%	53.4%	83.7%	89.3%	75.8%
	結婚していない	60.0%	64.6%	45.7%	58.3%	77.7%	81.1%	61.0%
男性	正社員(公務員含む)	67.2%	81.6%	55.2%	83.6%	86.8%	82.3%	70.7%
	非典型雇用	34.8%	47.2%	21.3%	46.1%	70.5%	73.0%	53.9%
	その他の就業	61.4%	79.2%	44.9%	67.3%	86.2%	77.4%	61.6%
	無業・その他	22.2%	26.3%	10.5%	26.3%	57.9%	68.4%	26.3%
女性	正社員(公務員含む)	77.4%	86.2%	64.7%	84.4%	83.1%	86.9%	75.5%
	非典型雇用	59.5%	74.1%	49.1%	39.4%	80.1%	87.3%	69.2%
	その他の就業	72.5%	78.2%	58.9%	54.2%	86.6%	87.3%	74.6%
	無業・その他	28.6%	50.0%	7.1%	35.7%	71.4%	71.4%	35.7%

注: %は肯定的回答(「かなりあてはまる」+「ある程度あてはまる」)の割合。網掛けは2001年調査の構成比に比べてポイントが増加したものの。太字は20ポイント以上の増減があるもの。二重下線は10以上20未満のポイントの増減があるもの。下線は5以上10ポイント未満の増減があるもの。

図表3-16 30歳代のキャリア類型別生活意識および2001年データとのポイント差

	これまでの進路選択は順調であった	自分の生活は、周囲の人からうまくいっていると思われる	将来の見通しは明るい	経済的に自立している	努力次第で将来は切り開けると思う	仕事以外に生きがいがある	現在の生活に満足している※	
男性	正社員一貫	81.8%	<u>90.4%</u>	<u>60.1%</u>	90.1%	87.7%	84.6%	77.1%
	正社員転職	71.5%	<u>82.8%</u>	<u>58.4%</u>	<u>84.6%</u>	<u>86.4%</u>	<u>82.3%</u>	71.0%
	正社員から非典型	42.9%	<u>57.1%</u>	14.3%	51.4%	68.6%	68.6%	60.0%
	正社員一時他形態	43.0%	<u>73.4%</u>	<u>52.6%</u>	<u>86.1%</u>	<u>84.8%</u>	<u>73.4%</u>	63.3%
	非典型一貫	31.4%	<u>41.2%</u>	<u>25.5%</u>	43.1%	<u>72.0%</u>	76.5%	49.0%
	他形態から正社員	48.5%	68.5%	<u>43.2%</u>	69.3%	85.9%	<u>81.6%</u>	62.0%
	自営・家業	<u>61.4%</u>	<u>79.2%</u>	44.9%	67.3%	<u>86.2%</u>	<u>77.4%</u>	61.6%
	現在無業	<u>22.2%</u>	26.3%	<u>10.5%</u>	<u>26.3%</u>	57.9%	<u>68.4%</u>	26.3%
	女性	正社員一貫	87.9%	94.8%	<u>68.1%</u>	90.5%	81.0%	<u>85.3%</u>
正社員転職		80.0%	94.1%	<u>70.6%</u>	94.1%	<u>92.2%</u>	94.1%	82.4%
正社員から非典型		67.0%	<u>79.7%</u>	53.5%	<u>39.7%</u>	84.3%	<u>91.0%</u>	71.6%
正社員一時他形態		70.0%	<u>82.0%</u>	68.0%	84.0%	84.0%	82.0%	68.0%
非典型一貫		49.8%	<u>67.1%</u>	42.7%	39.0%	<u>74.6%</u>	82.2%	66.7%
他形態から正社員		<u>63.4%</u>	<u>69.4%</u>	52.1%	67.6%	79.2%	87.5%	63.9%
自営・家業		72.5%	<u>78.2%</u>	58.9%	54.2%	<u>86.6%</u>	87.3%	74.6%
現在無業		28.6%	<u>50.0%</u>	7.1%	35.7%	<u>71.4%</u>	71.4%	35.7%

注：％は肯定的回答（「かなりあてはまる」＋「ある程度あてはまる」）の割合。網掛けは2001年調査の構成比に比べてポイントが増加したもの。太字は20ポイント以上の増減があるもの。二重下線は10以上20未満のポイントの増減があるもの。下線は5以上10ポイント未満の増減があるもの。

第5に、現在の就業状況別には、「無業・その他」層での生活に関する肯定的回答が顕著に少ないことや、非典型雇用層において肯定的意識が低いこと等が特徴として挙げられる。特に男性の場合、「将来の見通しは明るい」への肯定的回答は、非典型男性で21.3%、「無業・その他」男性では10.5%と、正社員男性（55.2%）との差は大きい。また、それについて、男性の非典型雇用および「無業・その他」において、肯定的回答の少ない項目が「これまでの進路選択は順調であった」であり、非典型雇用で34.8%、「無業・その他」で22.2%となっている。他方、女性の場合、非典型雇用層で肯定的意識が最も低い質問項目が「経済的に自立している」であり、男性以上に正社員（公務員を含む）と非典型雇用との差が大きく（45ポイント差）、さらには2001年データと比較してその差

は拡大傾向にある。また、女性の「無業・その他」では、男性の場合と同じく、「これまでの進路選択は順調であった」および「将来の見通しは明るい」に対する肯定的回答はかなり少なく、前者が28.6%、後者が7.1%となっている。非典型雇用女性の場合でも、これら2項目での肯定的意識は男性非典型雇用層より高いとはいえ、相対的に低い割合となっている。なお、女性の場合、「努力次第で将来は切り開けると思う」および「仕事以外に生きがいがある」では、就業状況別に統計的有意差は出ていない。

最後に、キャリア類型別に生活に関する意識を見ておこう（図表3-16）。ここで特徴的なのが、女性の正社員一貫および正社員転職層での生活意識に関する肯定度合の高さであり、それは男性正社員一貫層をほとんどの項目で上回っている。それとは反対に、すべての質問項目で肯定度合の低さが目立つのが男性無業層であり、例えば、「これまでの進路選択は順調であった」、「自分の生活は、周囲からうまくいっていると思われる」、「将来の見通しは明るい」、「経済的に自立している」、「現在の生活に満足している」では、同じ男性の正社員一貫層と40ポイント以上の差が生じている。女性の無業層でも、上記5項目で女性の正社員一貫層と40ポイント以上の差が生じている。その他、肯定的回答の相対的な少なさが目に留まるのが、男性の「正社員から非典型」および「非典型一貫（非典型一時正社員を含む）」、女性の「非典型一貫」である。それら3タイプに限定して、肯定的回答が5割を切っている質問項目を見ると、男性の「正社員から非典型」では2項目（「これまでの進路選択は順調だった」（42.9%）、「将来の見通しは明るい」（14.3%））、男性の「非典型一貫」で5項目（「これまでの進路選択は順調だった」（31.4%）、「自分の生活は、周囲の人からうまくいっていると思われる」（41.2%）、「将来の見通しは明るい」（25.5%）、「経済的に自立している」（43.1%）、「現在の生活に満足している」（49.0%））、女性の「非典型一貫」では3項目（「これまでの進路選択は順調だった」（49.8%）、「将来の見通しは明るい」（42.7%）、「経済的に自立している」（39.0%））あることがわかる。また、男性の「正社員から非典型」層では、「仕事以外に生きがいがある」に対する肯定的回答の割合も現在無業の層と同程度に低く、この層には自ら望んで非典型雇用へと進んだのではない者が多く含まれているのではないかと推察される。

2. 生活意識の規定要因——20歳代と30歳代との比較を通して

では、現在の30歳代の生活意識は、こういった要因によってより強く規定されているのであろうか。また、20歳代の意識とはいかなる相違が生じているのか。本節では、以上検討してきた諸属性に、週当たりの労働時間および年収（前節同様、世帯収入ではない）を連続変数として加え、30歳代の生活諸面への評価（「これまでの進路は順調であった」「自分の生活は、周囲の人からうまくいっている」「将来の見通しは明るい」「経済的に自立している」「努力次第で将来は切り開けると思う」「仕事以外に生きがいがある」の合成変数）および生活満足度（「現在の生活に満足している」）の規定

要因について分析をおこなう。生活諸面への評価を従属変数とする分析には重回帰分析を、生活満足度に関する分析には二項ロジスティック回帰分析を用いている。使用する変数については、本章末尾の【参考1】に記した。なお、生活満足度の質問項目は2001年調査では設けられていなかったため、2011年20歳代データとの比較のみ可能となっている。

図表3-17 20歳代（2001年）の生活諸面への評価の規定要因（重回帰分析）

独立変数	全体		男性		女性	
	偏回帰係数	β	偏回帰係数	β	偏回帰係数	β
男性ダミー	-.996	-.174 ***	—	—	—	—
大卒以上ダミー	.056	.008	.249	.040	-.186	-.025
正社員ダミー	.525	.089 *	.572	.100 *	.509	.083
結婚ダミー	1.109	.137 ***	1.269	.167 ***	.826	.095 *
週労働時間	.008	.041	.007	.038	.012	.048
年収	.004	.180 ***	.004	.215 ***	.003	.104 +
父高卒超ダミー	-.079	-.014	.105	.018	-.227	-.039
母高卒超ダミー	.650	.103 *	.642	.103 *	.614	.097 +
実家豊かダミー	.441	.077 *	.264	.047	.606	.104 *
(定数)	15.184	***	14.096	***	15.332	***
R ²	0.130		0.181		0.064	
Adj. R ²	0.122		0.168		0.048	
N	980		503		477	

注：+：p<0.10、*：p<0.05、**：p<0.01、***：p<0.001。

図表3-18 30歳代（2011年）の生活諸面への評価の規定要因（重回帰分析）

独立変数	全体		男性		女性	
	偏回帰係数	β	偏回帰係数	β	偏回帰係数	β
男性ダミー	-.885	-.148 ***	—	—	—	—
大卒以上ダミー	.128	.021	.199	.034	.012	.002
正社員ダミー	.860	.143 ***	.606	.084 *	1.130	.177 ***
結婚ダミー	.896	.139 ***	.610	.096 **	1.353	.209 ***
週労働時間	.007	.046	.000	.002	.016	.090 *
年収	.003	.300 ***	.003	.290 ***	.003	.232 ***
父高卒超ダミー	-.110	-.018	.007	.001	-.228	-.038
母高卒超ダミー	.158	.026	.165	.027	.110	.018
実家豊かダミー	1.073	.178 ***	1.016	.170 ***	1.148	.190 ***
(定数)	14.450	***	14.210	***	13.837	***
R ²	0.212		0.205		0.218	
Adj. R ²	0.207		0.196		0.209	
N	1454		746		708	

注：+：p<0.10、*：p<0.05、**：p<0.01、***：p<0.001。

生活諸面への評価の規定要因を見ていこう。まず、2001年の20歳代全体を見ると、性別、現在の就業形態（5%水準）、婚姻状況、年収、母学歴（5%水準）、そして実家の豊かさ（5%水準）が生活諸面への評価の規定要因として有意な効果を示している（図

表3-17)。また、標準偏回帰係数 β から、年収 (0.180) > 性別 (-0.174) > 婚姻状況 (0.137) > 母学歴 (0.103) > 現在の就業形態 (0.089) > 実家の豊かさ (0.077) の順で生活諸面への評価に影響していることが読みとれる。性別による違いを見ると、男性でのみ就業形態が、女性でのみ実家の豊かさ (10%水準) が、生活諸面への評価に正の効果と及ぼしていることがわかる。モデルの適合度を確認すると、R²乗値 (R²) が男性モデルでは0.181、女性モデルでは0.064となっているため、分散説明率は男性モデルで約18%、女性モデルで約6%となっている。独立変数の効果の大きさは、標準偏回帰係数 β の値から、男性の場合、年収 (0.215) > 婚姻状況 (0.167) > 母学歴 (0.103) > 就業状態 (0.100)、女性の場合、実家の豊かさ (0.104) \approx 年収 (0.104) > 母学歴 (0.097) > 婚姻状況 (0.095) の順となっており、男女ともに年収による生活諸面への評価に対する効果が最も大きいと言える。

他方、図表3-18を見ると、2011年時点では、30歳代全体で、生活諸面への評価に対して4つの変数が有意な効果を示しており、それらの変数による影響の強さは年収 (0.300) > 実家の豊かさ (0.178) > 性別 (-0.148) > 就業形態 (0.143) > 婚姻状況 (0.139) の順となっている (丸カッコ内は β 値)。男女別でも全体同様に、男女共通して就業形態、婚姻状況、年収、実家の豊かさが生活諸面への評価に影響しているが、女性の場合でのみ、さらに週労働時間の正の効果が見られている。標準偏回帰係数 β の値は、男性の場合、年収 (0.290) > 実家の豊かさ (0.170) > 婚姻状況 (0.096) > 就業形態 (0.084)、女性の場合、年収 (0.232) > 婚姻状況 (0.209) > 実家の豊かさ (0.190) > 就業形態 (0.177) > 週労働時間 (0.090) の順となっており、男性では女性に比べ年収の効果が、女性では男性に比べ就業形態と婚姻状況の効果が大きいことがわかる。なお、分散説明率は男女ともに20%代前半と、両モデルの説明力にほとんど差はないと言える。

2001年の20歳代と2011年の30歳代の分析結果を比較すると、30歳代全体で母学歴の効果が消えており、男女別には、30歳代男性では実家の豊かさが0.1%水準で影響するようになっているのに対して、30歳代女性では、2001年の20歳代の結果では見られなかった就業形態および週労働時間の効果があらわれていることが読みとれる。特に女性の場合、就業状況の効果は30歳代でのみ観察されるため、30歳代女性は20歳代以上に就業状況による生活状況の差異をより強く感じているのかもしれないと言える。また、単純に影響要因の変化を論じることはできないが、偏回帰係数の値から、30歳代男性では婚姻状況による影響は弱まるが、女性では逆に高まるのではないかと推測される。さらに、年収の効果は男女ともに30歳代で高まりを見せるが、女性でより影響力を増していると考えられる。

さらに、2011年の20歳代と比較してみよう (図表3-19)。2011年20歳代全体で、生活諸面への評価の規定要因として効果を持つのは、性別、就業形態、婚姻状況、年収、実家の豊かさである。性別のみ負の効果を示している。また、男女別に見た場合、女性

でのみ父学歴が 10%水準で生活諸面への評価に影響している。標準偏回帰係数 β の値を見ると、全体では年収(0.218) > 実家の豊かさ(0.157) > 就業形態(0.129) > 性別(-0.121) > 婚姻状況(0.109) の順に生活諸面への評価に影響を及ぼしている。性別では、男性で年収(0.270) > 就業形態(0.155) > 実家の豊かさ(0.147) > 婚姻状況(0.080) の順に、女性で実家の豊かさ(0.170) > 年収(0.149) > 就業状況(0.123) > 婚姻状況(0.112) > 父学歴(0.076) の順に効果が見られる。標準偏回帰係数 β の値で単純に比較すると、30 歳代の女性で就業形態($\beta = 0.177 : 0.123$)、婚姻状況($\beta = 0.209 : 0.112$)、年収($\beta = 0.232 : 0.149$) の影響が 20 歳代に比べて高いことが、30 歳代の相対的な特徴として指摘できる。

図表 3-19 20 歳代(2011 年)の生活諸面への評価の規定要因(重回帰分析)

独立変数	全体		男性		女性			
	偏回帰係数	β	偏回帰係数	β	偏回帰係数	β		
男性ダミー	-.757	-.121 ***	—	—	—	—	—	—
大卒以上ダミー	.127	.020	.324	.051	-.086	-.014		
正社員ダミー	.858	.129 ***	1.108	.155 ***	.779	.123 **		**
結婚ダミー	.987	.109 ***	.690	.080 *	1.074	.112 **		**
週労働時間	.001	.010	-.002	-.019	.002	.029		
年収	.005	.218 ***	.006	.270 ***	.004	.149 **		**
父高卒超ダミー	.217	.034	-.023	-.004	.485	.076 +		+
母高卒超ダミー	.273	.043	.254	.040	.287	.045		
実家豊かダミー	.991	.157 ***	.933	.147 ***	1.071	.170 ***		***
(定数)	14.425	***	13.551	***	14.528	***		***
R^2	0.166		0.213		0.124			
Adj. R^2	0.161		0.204		0.114			
N	1394		675		719			

注：+：p<0.10、*：p<0.05、**：p<0.01、***：p<0.001。

最後に、生活満足度(ダミー)の規定要因について検討しよう。生活満足度に関しては、2001 年 20 歳代との比較はできないため、2011 年の 20 歳代と 30 歳代での比較となる。図表 3-20 から 30 歳代の生活満足度の規定要因を見ると、先の分析同様に、性別、婚姻状況、年収(ただし、年収が高い場合のみ正の効果)、実家の豊かさが生活満足度に影響を及ぼしていることがわかる。10%水準で学歴の影響もあらわれている。つぎに、男女別に見た場合、男性では学歴、婚姻状況、実家の豊かさ、女性では婚姻状況、年収(高い場合は正の効果、低い場合は負の効果)、実家の豊かさの効果が見られ、男女の違いとしては男性でのみ学歴の影響があらわれ、女性でのみ年収の影響があることが挙げられる。また、オッズ比を見ると、男性よりも女性で婚姻状況および実家の豊かさの値が高くなっているため、女性の方が結婚しているかどうか、実家が豊かかどうかの違いが生活満足度の高低に与える影響はより大きいと言える。

図表 3-20 30 歳代 (2011 年) の生活満足度の規定要因 (ロジスティック回帰分析)

独立変数	全体		男性		女性	
	偏回帰係数	オッズ比	偏回帰係数	オッズ比	偏回帰係数	オッズ比
男性ダミー	-.640	.527 ***	—	—	—	—
大卒以上ダミー	.256	1.292 +	.446	1.562 *	-.031	.969
正社員ダミー	.131	1.140	.290	1.336	-.112	.894
結婚ダミー	.557	1.746 ***	.400	1.492 *	.843	2.324 ***
労働時間長いダミー	.017	1.017	.046	1.048	.036	1.036
労働時間短いダミー	-.017	.983	.337	1.401	-.195	.823
年収高いダミー	.342	1.408 *	.287	1.333	.667	1.948 +
年収低いダミー	-.254	.776	-.122	.885	-.454	.635 +
父高卒超ダミー	.007	1.007	.202	1.224	-.198	.820
母高卒超ダミー	.119	1.127	.038	1.039	.180	1.197
実家豊かダミー	.551	1.736 ***	.408	1.504 *	.705	2.024 ***
(定数)	.288	1.334	-.451	.637 +	.438	1.549
Nagelkerke決定係数	0.089		0.093		0.103	
モデル適合度	p=0.000		p=0.000		p=0.000	
N	1462		751		711	

注: +: p<0.10、*: p<0.05、**: p<0.01、***: p<0.001。

図表 3-21 20 歳代 (2011 年) の生活満足度の規定要因 (ロジスティック回帰分析)

独立変数	全体		男性		女性	
	偏回帰係数	オッズ比	偏回帰係数	オッズ比	偏回帰係数	オッズ比
男性ダミー	-.553	.575 ***	—	—	—	—
大卒以上ダミー	.090	1.094	.324	1.383 +	-.119	.887
正社員ダミー	.279	1.322 +	.421	1.523 +	.171	1.186
結婚ダミー	.849	2.337 ***	.845	2.329 **	.721	2.056 *
労働時間長いダミー	-.477	.621 **	-.453	.635 *	-.573	.564 **
労働時間短いダミー	-.617	.540 ***	-.594	.552 *	-.687	.503 **
年収高いダミー	.826	2.285 ***	.620	1.860 **	.886	2.425 ***
年収低いダミー	.560	1.751 **	.258	1.294	.746	2.109 **
父高卒超ダミー	.348	1.416 *	.265	1.304	.440	1.553 *
母高卒超ダミー	-.154	.857	-.169	.845	-.106	.899
実家豊かダミー	.561	1.752 ***	.374	1.454 *	.761	2.141 ***
(定数)	-.335	+	-.766	**	-.407	
Nagelkerke決定係数	0.135		0.138		0.128	
モデル適合度	p=0.000		p=0.000		p=0.000	
N	1402		679		723	

注: +: p<0.10、*: p<0.05、**: p<0.01、***: p<0.001。

2011 年の 20 歳代 (図表 3-21) との違いとしては、2011 年の 20 歳全体では就業形態 (10%水準)、労働時間 (長短ともに 1%水準以下)、年収 (高低ともに 1%水準以下)、父学歴 (5%水準) の影響が見られることが挙げられる。特に労働時間が相対的に長くても短くても生活満足度には負の影響があり、また年収に関しては、(特に女性で) 年収が相対的に高くても低くても生活満足度には正の影響があることが特徴的である。ここから現在の 20 歳代では、生活満足度の基準として仕事に重点を置いている層と仕事以外に求める層とで二分されているのではないかということが推測される。さらに、2011 年

の20歳代では、30歳代の傾向とは異なり、男性の方が女性に比べて結婚しているかどうかのオッズ比が高くなっている。先の生活諸面への評価の規定要因分析と同様に、年齢の増加に伴い、結婚しているかどうかの影響は男性では弱まり、女性では反対に強まっているのである。本調査には子どもの有無に関する質問項目が含まれていないため詳しくは検討できないが、女性の場合、子どもの存在の大きさが彼女らの生活に大きな影響を持っており、それがおそらくこうした男女間での意識の差異を生んでいるのであらうと推察される。

第4節 まとめ

本章では大都市における30歳代男女の職業意識と生活意識の諸特徴について検討し、その規定要因を探ってきた。分析の結果見出されたおもな知見を整理しておこう。ここでは、30歳代の職業意識・生活意識それぞれについて特徴的な点と、30歳代意識のどういった点が時代効果、年齢効果、世代効果によるものなのかについてまとめる。

- ① 30歳代の職業意識の全体的な傾向としては、20歳代と比較して、フリーター共感意識は薄らいだ状態にあり、有名志向、現在志向、仕事への迷いも弱まっている。他方、同一企業勤続志向や正社員志向、利他志向は30歳代で高まっており、専門志向や資格志向は10年という期間を経てもなお高い水準で維持されている。特に同一企業勤続志向は、高学歴・高収入といった労働市場において相対的に優位な位置にある正社員ではなく、大卒以下の学校段階で卒業し正社員となった、比較的年収の高くはない層で相対的に高く見出された。
- ② 【時代効果】：フリーター共感意識は、30歳代だけでなく、20歳代（2011年）でも同様に低いことから、社会全体でフリーター共感意識の弱まりが起きていると考えられる。同様に、高収入志向も2001年の20歳代と2011年の2世代との間で大きな差があることから、それらの意識は時代効果により左右されていると言える。
- ③ 【年齢効果】：30歳代の「ひとの役に立つ仕事をしたい」への肯定的回答が20歳代と比べて若干高いことから、年齢が上がるとともに利他志向は高まっていると言える。他方、有名志向、現在志向、そして仕事への迷いは30歳代になるにつれ低下する傾向がある。
- ④ 【世代効果】：仕事離れ意識は、現在の20歳代世代と比べて、30歳代世代でやや低い傾向が見られることから、年齢や時代により大きく左右されるものではなく、そうした意識を比較的強く持つ層は職業キャリアの初期段階から継続して一定数存在すると考えられる。一方、対人関係への評価、一般的信頼感、政府への非力感に関しては世代間での差はほとんどない。

- ⑤ 30 歳代の生活意識に関しては、全体的に肯定的な回答が多くなっており、2001 年調査では半数以下であった「将来の見通しは明るい」および「経済的に自立している」への肯定的回答はともに 5 割を上回っている。しかし、前者に関しては、ここ 10 年で男性の正社員と非典型雇用との間に意識の開きが生じてきており、女性の場合は「無業・その他」層とそれ以外（正社員や非典型雇用、「その他の就業」）との間の溝が広がっている。後者に関しては、「経済的に自立している」男性が女性よりも 20 ポイント多く、男女でかなりの差が生じているが、2001 年調査同様、女性の生活全体に対する満足度は男性よりも高く見られ、正社員女性では「経済的に自立している」割合もかなり高くなっている。特に「正社員転職」女性は「経済的に自立している」だけでなく「仕事以外に生きがいがある」でのポイント増加も大きいなど、30 歳代正社員女性の生活意識に関するポイントの高さは顕著である。そうした正社員女性層の自らの生活に対する肯定度合の高さとは対照的に、生活意識に関する肯定的回答の低さが目立つのが男性無業層であり、「正社員から非典型」男性や「非典型一貫」男女のそれも低く見られる。とりわけ男性の「正社員から非典型」では「仕事以外に生きがいがある」への肯定的回答も無業層と同程度に低いため、この層には自ら望んで非典型雇用へと進んだのではない者が多く含まれていると推察される。その他、男女ともに現在結婚している層ほど自らの生活に対する肯定度合が全般的に高く、婚姻状況による生活意識の違いは大きい。
- ⑥ 【時代効果】：努力志向は、20 歳代・30 歳代どちらの世代を見ても 8 割以上とかなり高いが、ここ 10 年で若干の弱まりが見られ、その背後には時代効果が少なからずあると考えられる。特に高等教育中退層や非正社員層の男女、キャリア類型別には男性の「正社員から非典型」層や無業層の努力志向に対する肯定的回答はここ 10 年で大きく減少している。その反面、「正社員転職」女性の努力志向は、20 歳代の同一層に比べて 10 ポイント以上の高まりを見せている。
- ⑦ 【年齢効果】：30 歳代ほど生活意識に関する肯定的回答は高く、特に「自分の生活は、周囲の人からうまくいっていると思われる」と「経済的に自立している」で 20 歳代との差が大きい。また、生活諸面への評価に関しては、性別や世代に関係なく年収による効果が最も大きく、30 歳代ほどその影響力は高まっている。また、女性の場合、婚姻状況や就業状況の影響も比較的大きく見られる。さらに、現在結婚しているかどうかの違いが生活諸面への評価および生活満足度に与える影響は、女性の場合 20 歳代よりも 30 歳代で高くなり、男性の場合低下することを支持する結果が見られた。
- ⑧ 【世代効果】：今回の結果からは世代効果による生活意識の明瞭な違いは見出せていない。

以上、本章における分析の結果浮かび上がってきたのは、大都市における30歳代男女の仕事に対して安定を好む態度と自らの生活を肯定的に捉える姿である。ここ10年間の社会全体的なフリーター共感意識の弱まり、やりたいこと志向支持層の30歳代での縮小化、正社員志向や同一企業勤続志向の高揚は、30歳代の意識が仕事・生活の安定化を志向する方向へと傾いてきていることを示している。そして、実際に30歳代の生活意識に関する肯定度合は20歳代と比較して着実に高まっている。全体的に見れば、大都市における30歳代の職業・生活意識の安定化は彼ら彼女らの雇用・生活環境への好適応ゆえに生み出されたものだと好意的に解釈できるだろう。また、こうした意識変化には、結婚し家庭を築くといった、多くの30歳代が経験している人生上の変化だけではなく、日本社会における経済状況や雇用状況の先行き不透明さが関係していると考えられる。

しかし、この意識変容の背後にある負の側面についても指摘しておく必要はあるだろう。すなわち、こうしたミクロ・マクロの変化は、彼ら彼女ら自身の生活の、そして社会の現状維持を結果として招き、さらには学歴・キャリア等による世代内意識差を20歳代にも増して拡大させているのではないかということである。30歳代になるにつれ安定性を志向する意識が世代全体的に形成されてきており、また年齢の高まりとともに徐々に労働世界に適応していくためか、仕事への迷いが薄れていく側面は見られるものの、他方で、仕事離れ意識を持つ層は20歳代から一定数存在し続けており、現在の就業形態やこれまでのキャリアの違い等による仕事・生活に関する意識差は拡大する傾向が一部見られるのである。女性正社員層の生活に対する肯定度合が顕著な高まりを見せている一方で、男性無業者をはじめとして、非典型雇用層等は自らの仕事・生活を肯定的に評価しにくくなっているのではないだろうか。

そのため、同世代の他の人々が仕事に対する意識を安定化させ、自らの生活に対する肯定意識を高めていく中で、取り残されてしまっている層に対する政策的支援を特に充実させていくことが必要だろう。また、本調査が対象とした30歳代の仕事と生活に関わるニーズは、若年世代に比べてより多様であると考えられるため、彼ら彼女らのニーズに対応可能な就労支援や雇用環境の整備等が今後求められる。

参考文献

- 本田由紀, 2001, 「ジェンダーと労働形態——若年者下位グループ間の比較分析」日本労働研究機構編『大都市の若者の就業行動と意識——広がるフリーター経験と共感』調査研究報告書 No. 146, pp. 163-185.
- 小杉礼子, 2001, 「現代若者の仕事と職業意識」日本労働研究機構編『大都市の若者の就業行動と意識——広がるフリーター経験と共感』調査研究報告書 No. 146, pp. 31-77.
- , 2006, 「教育から職業への移行の変容」労働政策研究・研修機構編『大都市の若者の就業行動と移行過程——包括的な移行支援に向けて』労働政策研究報告書 No. 72, pp. 14-60.
- , 2009a, 「北海道における若者の職業キャリアの展開と課題」労働政策研究・研修機構編『地方の若者の就業行動と移行過程』労働政策研究報告書 No. 108, pp. 51-87.
- , 2009b, 「長野県における若者の職業キャリアの展開と課題」労働政策研究・研修機構編『地方の若者の就業行動と移行過程』労働政策研究報告書 No. 108, pp. 149-184.
- 寺地幹人, 2012, 「大都市の 20 歳代の職業意識の分析」労働政策研究・研修機構編『大都市の若者の就業行動と意識の展開——「第 3 回 若者のワークスタイル調査」から』労働政策研究報告書 No. 148, pp. 87-121.

参考 1 : 本章で使用する変数の説明

従属変数	やりたいこと志向ダミー	「若いうちは仕事よりも自分のやりたいことを優先させたい」について、「そう思う」と「ややそう思う」を1、「あまりそう思わない」「そう思わない」を0
	同一企業勤続志向ダミー	「一つの企業に長く勤めるほうがよい」について、「そう思う」と「ややそう思う」を1、「あまりそう思わない」「そう思わない」を0
	生活諸面への評価	「これまでの進路選択は順調であった」、「自分の生活は、周囲の人からうまくいっていると思われる」、「将来の見通しは明るい」、「経済的に自立している」、「努力次第で将来は切り開けると思う」、「仕事以外に生きがいがある」それぞれについて、「かなりあてはまる」=4～「ほとんどあてはまらない」=1と得点化し、合算。アルファ係数は、0.665（2001年データ）、0.749（2011年20歳代データ）0.736（2011年30歳代データ）。
	生活満足ダミー	「現在の生活に満足している」について、「かなりあてはまる」と「あてはまる」を1、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」を0
独立変数	男性ダミー	「男性」=1、「女性」=0
	大卒以上ダミー	最終学歴から、「大卒・大学院卒」=1、「高卒」「専門・短大・高専卒」「中卒・高校中退」「高等教育中退」「その他・不明」=0
	正社員ダミー	現在の就業形態から、「正社員（公務員含む）」=1、「非典型雇用」「自営・自由業・家業」「その他・無業」=0
	結婚ダミー	現在の婚姻状況から、「結婚している」=1、「結婚していない」=0
	週労働時間(労働時間長いダミーおよび労働時間短いダミー)	現職の「1週間の労働時間(残業含む)」について、度数分布から3等分に近い点で切り、低位群を「労働時間短」、中位群を「労働時間並」、高位群を「労働時間長」とする。そこから、「労働時間短」=1、それ以外を0とした「労働時間短いダミー」と、「労働時間長」=1、それ以外を0とした「労働時間長いダミー」をそれぞれ作成。
	年収(年収高いダミーおよび年収低いダミー)	「現在のおよその年収」（2001年調査の場合は「昨年の年収」）について、度数分布から3等分に近い点で切り、低位群を「年収低」、中位群を「年収並」、高位群を「年収高」とする。そこから、「年収低」=1、それ以外を0とした「年収低いダミー」と、「年収高」=1、それ以外を0とした「年収高いダミー」をそれぞれ作成。
	父高卒超ダミー	父親の最終学歴から、「父学歴」変数を作成。そこから、「専門・短大・高専卒」「大学・大学院卒」=1、「中卒」「高卒」=0
	母高卒超ダミー	母親の最終学歴から、「母学歴」変数を作成。そこから、「専門・短大・高専卒」「大学・大学院卒」=1、「中卒」「高卒」=0
実家豊かダミー	「あなたのご実家(または保護者の家)の経済的豊かさはどのくらいですか」について、「豊かである」=1～「豊かでない」=4のうち、1と2を「実家豊か」=1、3と4を「実家豊かでない」=0	

参考2：有効ケース数一覧

男性 全体	2011年 30歳代男性	高卒	専門・短 大・高専 卒	大学・大 学院卒	中卒・高 校中退	高等教 育中退	結婚し ている	結婚し ていない	正社員 (公務員 含む)	非典型 雇用	その他 の就業 その他	正社員 一貫	正社員 転職	正社員 から非 典型 形態	正社員 一時他 形態	他形態 から正 社員	自営・ 家業	現在 無業	
																			正社員 一貫
1033	今の世の中、定職に就かなくても暮らしていける	235	219	452	57	51	682	327	767	89	158	293	220	35	79	51	163	158	19
1030	若いうちは仕事よりも自分のやりたいことを優先させたい	234	219	450	57	51	680	326	765	89	157	293	220	35	79	51	161	157	19
1030	いろいろな職業を経験したい	235	219	450	56	51	679	327	765	89	157	292	219	35	79	51	163	157	19
1028	やりたい仕事なら正社員でもフリーターでもこだわらない	234	218	449	57	51	677	327	763	89	157	292	218	35	79	51	163	157	19
1032	一つの企業に長く働めるほうがよい	235	218	452	57	51	682	326	766	89	158	293	220	35	78	51	163	158	19
1033	フリーターより正社員で働いた方がトクだ	235	219	452	57	51	682	327	767	89	158	293	220	35	79	51	163	158	19
1032	専門的な知識や技術を磨きたい	235	219	452	56	51	681	327	766	89	158	293	220	35	79	51	162	158	19
1032	職業生活に役立つ仕事をしたい	235	219	451	57	51	681	327	767	89	157	293	220	35	79	51	163	157	19
1032	ひとの役に立つ仕事をしたい	235	218	452	57	51	682	326	767	88	158	293	220	35	79	50	163	158	19
1028	将来は独立して自分の店や仕事をもちたい	232	219	450	57	51	681	324	766	88	155	292	220	34	79	51	163	155	19
1032	有名になりたい	235	219	451	57	51	682	326	766	89	158	293	220	35	79	51	162	158	19
1033	ひとよりも高い収入を得たい	235	219	452	57	51	682	327	767	89	158	293	220	35	79	51	163	158	19
1027	将来のことを考えるよりも今を楽しみたい	233	219	451	55	51	678	325	763	89	156	292	219	35	79	51	161	156	19
1032	自分に向いている仕事が終わらない	235	219	451	57	51	681	327	767	89	157	293	220	35	79	51	163	157	19
1032	できれば仕事はしたくない	235	219	452	57	50	682	326	767	88	158	293	220	35	79	50	163	158	19
1033	誰とでもすぐに仲良くなれる	235	219	452	57	51	682	327	767	89	158	293	220	35	79	51	163	158	19
1029	ほとんどの人は借額できる	232	219	451	57	51	679	326	765	89	156	293	220	35	78	51	162	156	19
1031	自分には政府のすることに対して、それを左右する力はない	235	219	450	57	51	681	326	767	89	156	293	220	35	79	51	163	156	19
女性 全体	2011年 30歳代女性	高卒	専門・短 大・高専 卒	大学・大 学院卒	中卒・高 校中退	高等教 育中退	結婚し ている	結婚し ていない	正社員 (公務員 含む)	非典型 雇用	その他 の就業 その他	正社員 一貫	正社員 転職	正社員 から非 典型 形態	正社員 一時他 形態	他形態 から正 社員	自営・ 家業	現在 無業	
963	今の世の中、定職に就かなくても暮らしていける	241	399	251	38	25	643	292	290	518	141	117	51	300	50	213	71	141	14
963	若いうちは仕事よりも自分のやりたいことを優先させたい	241	400	250	38	25	642	292	290	518	141	117	51	300	50	213	71	141	14
962	いろいろな職業を経験したい	239	400	251	38	25	641	292	290	517	141	117	51	300	50	212	71	141	14
962	やりたい仕事なら正社員でもフリーターでもこだわらない	239	399	251	39	25	642	291	290	516	142	116	51	300	50	211	72	142	14
963	一つの企業に長く働めるほうがよい	240	399	251	39	25	643	292	291	517	141	117	51	299	50	213	72	141	14
962	フリーターより正社員で働いた方がトクだ	241	398	250	39	25	643	291	290	518	140	117	50	300	50	213	72	140	14
965	専門的な知識や技術を磨きたい	241	400	251	39	25	644	292	291	518	142	117	51	300	50	213	72	142	14
962	職業生活に役立つ仕事をしたい	240	400	251	37	25	642	291	289	518	141	117	51	300	50	213	70	141	14
963	ひとの役に立つ仕事をしたい	241	399	251	38	25	643	291	289	518	142	117	50	300	50	213	71	142	14
964	将来は独立して自分の店や仕事をもちたい	241	399	251	39	25	643	292	291	518	141	117	51	300	50	213	72	141	14
964	有名になりたい	241	400	250	39	25	643	292	291	517	142	117	51	300	50	212	72	142	14
964	ひとよりも高い収入を得たい	241	399	251	39	25	643	292	291	518	141	117	51	300	50	213	72	141	14
962	将来のことを考えるよりも今を楽しみたい	241	399	250	38	25	641	292	290	516	142	117	51	298	50	213	71	142	14
965	自分に向いている仕事が終わらない	241	400	251	39	25	644	292	291	518	142	117	51	300	50	213	72	142	14
965	できれば仕事はしたくない	241	400	251	39	25	644	292	291	518	142	117	51	300	50	213	72	142	14
965	誰とでもすぐに仲良くなれる	241	400	251	39	25	644	292	291	518	142	117	51	300	50	213	72	142	14
962	ほとんどの人は借額できる	240	399	251	39	25	643	290	289	517	142	116	51	299	50	213	71	142	14
962	自分には政府のすることに対して、それを左右する力はない	241	399	251	38	25	642	291	290	517	142	117	51	299	50	213	71	142	13

2001年 20歳代男性(主婦・学生は除く)	男性 全体	専門・短 大・高専 卒	大学・大 学院卒	中卒・高 校中退	高等教 育中退	結婚し ている	結婚し ていない	正社員 (公務員 含む)	非典型 雇用	その他 の就業	無業・ その他	正社員 一貫	正社員 転職	正社員 から非 典型	正社員 正社員 一時他 形態	非典型 一貫	他形態 から正 社員	自営・ 家業	現在 無業
今の世の中、定職に就かなくても暮らしていける	784	254	191	197	73	59	124	660	306	407	35	145	51	88	32	319	76	35	35
若いうちには仕事よりも自分のやりたいことを優先させたい	782	252	191	197	73	59	124	658	305	406	35	145	51	88	32	318	75	35	35
いろいろな職業を経験したい	784	254	191	197	73	59	124	660	306	407	35	145	51	88	32	319	76	35	35
やりたい仕事なら正社員でもフリーターでもこだわらない	784	254	191	197	73	59	124	660	306	407	35	145	51	88	32	319	76	35	35
一つの企業に長く勤めるほうがよい	783	254	191	196	73	59	124	659	305	407	35	144	51	88	32	319	76	35	35
フリーターより正社員で働いた方がトクだ	783	253	191	197	73	59	124	659	306	406	35	145	51	87	32	319	76	35	35
専門的な知識や技術を磨きたい	784	254	191	197	73	59	124	660	306	407	35	145	51	88	32	319	76	35	35
職業生活に役立つ仕事をしたい	784	254	191	197	73	59	124	660	306	407	35	145	51	88	32	319	76	35	35
ひとの役に立つ仕事をしたい	784	254	191	197	73	59	124	660	306	407	35	145	51	88	32	319	76	35	35
将来は独立して自分の店や仕事をもちたい	784	254	191	197	73	59	124	660	306	407	35	145	51	88	32	319	76	35	35
有名になりたい	784	254	191	197	73	59	124	660	306	407	35	145	51	88	32	319	76	35	35
ひとよりも高い収入を得たい	783	253	191	197	73	59	124	659	306	406	35	145	51	87	32	319	76	35	35
将来のことを考えるよりも今を楽しみたい	784	254	191	197	73	59	124	660	306	407	35	145	51	88	32	319	76	35	35
自分に向いている仕事が見つからない	783	253	191	197	73	59	124	659	306	406	35	145	51	87	32	319	76	35	35
できれば仕事はしたくない	782	253	190	197	73	59	124	658	305	406	35	144	51	87	32	319	76	35	35
2001年 20歳代女性(主婦・学生は除く)	女性 全体	専門・短 大・高専 卒	大学・大 学院卒	中卒・高 校中退	高等教 育中退	結婚し ている	結婚し ていない	正社員 (公務員 含む)	非典型 雇用	その他 の就業	無業・ その他	正社員 一貫	正社員 転職	正社員 から非 典型	正社員 正社員 一時他 形態	非典型 一貫	他形態 から正 社員	自営・ 家業	現在 無業
今の世の中、定職に就かなくても暮らしていける	704	227	316	109	22	21	91	613	201	437	31	116	26	180	22	257	36	31	34
若いうちには仕事よりも自分のやりたいことを優先させたい	704	227	316	109	22	21	91	613	201	437	31	116	26	180	22	257	36	31	34
いろいろな職業を経験したい	703	227	316	108	22	21	91	612	200	437	31	116	26	180	22	257	35	31	34
やりたい仕事なら正社員でもフリーターでもこだわらない	704	227	316	109	22	21	91	613	201	437	31	116	26	180	22	257	36	31	34
一つの企業に長く勤めるほうがよい	704	227	316	109	22	21	91	613	201	437	31	116	26	180	22	257	36	31	34
フリーターより正社員で働いた方がトクだ	702	226	315	109	22	21	91	611	200	436	31	116	26	180	21	256	36	31	34
専門的な知識や技術を磨きたい	702	227	314	109	22	21	91	611	201	435	31	116	26	180	22	255	36	31	34
職業生活に役立つ仕事をしたい	704	227	316	109	22	21	91	613	201	437	31	116	26	180	22	257	36	31	34
ひとの役に立つ仕事をしたい	704	227	316	109	22	21	91	613	201	437	31	116	26	180	22	257	36	31	34
将来は独立して自分の店や仕事をもちたい	704	227	316	109	22	21	91	613	201	437	31	116	26	180	22	257	36	31	34
有名になりたい	704	227	316	109	22	21	91	613	201	437	31	116	26	180	22	257	36	31	34
ひとよりも高い収入を得たい	704	227	316	109	22	21	91	613	201	437	31	116	26	180	22	257	36	31	34
将来のことを考えるよりも今を楽しみたい	704	227	316	109	22	21	91	613	201	437	31	116	26	180	22	257	36	31	34
自分に向いている仕事が見つからない	702	227	314	109	22	21	91	611	200	436	31	115	26	179	22	257	36	31	34
できれば仕事はしたくない	701	225	316	109	22	20	91	610	200	435	31	115	26	180	22	255	36	31	34

男性 全体	高卒	専門・短 大・高専 卒	大学・大 学院卒	中卒・高 校中退	高等教 育中退	結婚し ている	結婚し ていな い	正社員 (公務員 含む)	非典型 雇用	その他 の就業 その他	正社員 一貫	正社員 転職	正社員 から非 典型	正社員 一時他 形態	非典型 一貫	他形態 から正 社員	自営・ 家業	現在 無業
2011年 30歳代男性																		
1031	235	219	451	56	51	681	327	766	89	158	292	221	35	79	51	163	158	18
1034	236	219	452	57	50	683	327	767	89	159	293	221	35	79	51	162	159	19
1032	236	219	450	57	51	682	326	766	89	158	293	221	35	78	51	162	158	19
1035	236	219	452	57	51	684	327	768	89	159	293	221	35	79	51	163	159	19
1034	236	218	452	57	51	684	326	768	88	159	293	221	35	79	50	163	159	19
1034	236	219	451	57	51	683	327	767	89	159	293	220	35	79	51	163	159	19
1035	236	219	452	57	51	684	327	768	89	159	293	221	35	79	51	163	159	19
女性 全体																		
2011年 30歳代女性																		
962	241	398	250	39	25	643	290	288	518	142	116	50	300	50	213	71	142	14
964	241	400	250	39	25	644	291	290	518	142	116	51	300	50	213	72	142	14
961	241	398	250	38	25	641	291	289	517	141	116	51	299	50	213	71	141	14
963	241	400	249	39	25	644	290	289	518	142	116	51	300	50	213	71	142	14
964	241	400	250	39	25	644	291	290	518	142	116	51	300	50	213	72	142	14
964	241	400	250	39	25	644	291	290	518	142	116	51	300	50	213	72	142	14
963	240	400	250	39	25	644	290	290	517	142	116	51	299	50	213	72	142	14
男性 全体																		
2001年 20歳代男性(主婦・学生は除く)																		
783	254	190	197	73	59	124	659	306	406	35	145	51	87	32	319	76	35	35
781	253	190	197	72	59	124	657	304	406	35	144	51	87	31	319	76	35	35
784	254	191	197	73	59	124	660	306	407	35	145	51	88	32	319	76	35	35
784	254	191	197	73	59	124	660	306	407	35	145	51	88	32	319	76	35	35
782	253	191	196	73	59	124	658	305	406	35	144	51	88	32	318	76	35	35
783	254	191	196	73	59	123	660	305	407	35	145	51	88	32	319	75	35	35
女性 全体																		
2001年 20歳代女性(主婦・学生は除く)																		
704	227	316	109	22	21	91	613	201	437	31	116	26	180	22	257	36	31	34
704	227	316	109	22	21	91	613	201	437	31	116	26	180	22	257	36	31	34
704	227	316	109	22	21	91	613	201	437	31	116	26	180	22	257	36	31	34
704	227	316	109	22	21	91	613	201	437	31	116	26	180	22	257	36	31	34
703	227	316	108	22	21	91	612	200	437	31	116	26	180	22	257	35	31	34
704	227	316	109	22	21	91	613	201	437	31	116	26	180	22	257	36	31	34

参考3：2011年の30歳代データと20歳代データ間でのポイント差

	今の世の中、定職に就かなくても暮らしていける	将来のことを考えるよりも今を楽しく生きたい	若いうちは仕事よりも自分のやりたいことを優先させたい	いろいろな職業を経験したい	やりたい仕事なら正社員でもフリーターでもこだわらない	将来は独立して自分の店や会社を持ちたい	一つの企業に長く勤めるほうがよい	フリーターより正社員で働いたほうがトクだ	専門的な知識や技術を磨きたい	
全体	-9.2%	-9.2%	-10.1%	-3.6%	-4.5%	4.6%	3.1%	0.4%	1.0%	
性別	男性	-5.8%	-8.9%	-8.4%	-5.2%	-9.5%	3.7%	3.7%	0.7%	0.5%
	女性	-12.7%	-9.5%	-11.8%	-1.8%	1.0%	4.8%	2.5%	0.1%	1.4%
男性	高卒	-2.8%	-9.7%	-7.1%	-9.7%	-9.6%	5.5%	4.4%	0.0%	1.1%
	専門・短大・高専卒	4.3%	-9.0%	-8.7%	-2.2%	-14.6%	0.5%	4.5%	-1.0%	1.8%
	大学・大学院卒	-11.5%	-12.7%	-8.3%	-2.6%	-6.2%	4.3%	3.4%	1.5%	0.1%
	中卒・高校中退	-12.9%	6.1%	-9.1%	-13.5%	2.6%	13.0%	6.3%	0.3%	3.6%
	高等教育中退	0.1%	3.6%	-5.6%	-5.6%	-7.7%	3.3%	-7.5%	-1.2%	-4.3%
	女性	高卒	-13.8%	-10.7%	-5.6%	0.0%	-3.8%	7.5%	0.8%	2.1%
専門・短大・高専卒	-14.5%	-14.4%	-21.6%	-6.6%	-2.5%	-1.9%	1.1%	-0.8%	-2.1%	
大学・大学院卒	-7.8%	-7.8%	-6.4%	-1.8%	4.9%	11.7%	-0.8%	-1.4%	2.5%	
中卒・高校中退	-23.7%	-2.3%	2.9%	-3.6%	-10.2%	14.2%	4.8%	15.9%	10.7%	
高等教育中退	-29.3%	-14.2%	-31.1%	-8.3%	-12.4%	-9.3%	25.8%	20.9%	-2.7%	
男性	現在結婚している	-4.3%	-0.8%	-3.0%	-3.9%	-3.7%	0.3%	1.9%	-1.2%	-3.1%
	現在結婚していない	-3.2%	-2.4%	-5.1%	-3.5%	2.7%	3.0%	1.5%	-2.2%	-1.0%
女性	現在結婚している	-9.3%	-0.3%	-3.8%	8.6%	3.3%	1.8%	-7.3%	2.2%	0.0%
	現在結婚していない	-7.7%	-5.1%	-6.5%	-5.0%	2.4%	8.9%	3.1%	-3.2%	1.3%
男性	正社員(公務員含む)	-6.9%	-10.4%	-8.7%	-3.6%	-7.1%	-2.1%	5.6%	0.7%	-0.9%
	非典型雇用	0.8%	-1.6%	-7.9%	0.7%	-3.9%	5.4%	13.0%	9.6%	2.5%
	その他の就業	-10.7%	-6.1%	-0.7%	-13.6%	-15.1%	9.7%	-8.2%	-2.5%	0.4%
	無業・その他	10.6%	6.0%	12.0%	-34.7%	-10.0%	13.3%	-7.0%	-18.1%	-6.6%
女性	正社員(公務員含む)	-9.8%	-8.3%	-11.4%	-3.9%	-0.5%	2.1%	4.0%	1.0%	1.6%
	非典型雇用	-21.1%	-11.3%	-14.0%	-2.1%	-11.9%	-3.2%	4.3%	5.0%	2.1%
	その他の就業	-33.1%	-18.3%	-27.4%	-4.3%	-13.8%	-0.4%	-6.2%	13.6%	7.2%
	無業・その他	-10.3%	-21.2%	-0.5%	8.5%	-4.2%	34.9%	0.1%	-8.2%	16.7%
男性	正社員一貫	-6.3%	-12.1%	-7.1%	-3.0%	-8.2%	-7.8%	12.3%	2.4%	1.0%
	正社員転職	-0.2%	-6.0%	-8.7%	-4.2%	-0.6%	0.5%	-2.5%	-0.1%	-0.8%
	正社員から非典型	8.9%	-5.7%	-4.8%	-3.2%	-4.1%	1.4%	22.9%	8.3%	0.7%
	正社員一時他形態	-4.1%	-11.9%	-24.3%	-18.1%	-13.7%	-9.8%	12.4%	4.2%	0.6%
	非典型一貫他形態から正社員	-2.8%	-1.3%	-11.0%	1.5%	-2.5%	5.9%	8.7%	9.3%	4.0%
	正社員	-13.1%	-3.9%	-9.6%	-4.0%	-12.9%	-6.1%	4.9%	0.0%	-3.7%
	自営・家業	-10.7%	-6.1%	-0.7%	-13.6%	-15.1%	9.7%	-8.2%	-2.5%	0.4%
	現在無業	10.1%	6.4%	11.5%	-32.5%	-9.8%	9.8%	-11.9%	-21.0%	-6.7%
女性	正社員一貫	-16.3%	-7.5%	-12.5%	-14.6%	-4.7%	-4.1%	10.3%	2.5%	2.1%
	正社員転職	1.6%	-2.9%	-9.2%	4.8%	2.0%	-2.1%	-3.7%	-2.3%	1.4%
	正社員から非典型	-20.3%	-5.5%	-6.3%	-5.2%	-11.3%	-0.6%	2.2%	7.4%	4.3%
	正社員一時他形態	3.0%	-13.7%	-20.7%	6.4%	-0.9%	28.9%	-3.4%	-2.4%	-0.4%
	非典型一貫他形態から正社員	-18.5%	-9.2%	-12.5%	-0.4%	-7.4%	-3.0%	5.0%	2.2%	-0.1%
	正社員	-6.9%	-2.8%	-13.7%	-7.2%	-3.2%	-6.9%	3.0%	-0.1%	-0.5%
	自営・家業	-33.1%	-18.3%	-27.4%	-4.3%	-13.8%	-0.4%	-6.2%	13.6%	7.2%
	現在無業	-8.7%	-19.7%	-2.4%	6.7%	-6.3%	33.6%	0.3%	-9.0%	15.7%

		職業生活に 役立つ資格 を取りたい	ひとの役に 立つ仕事を したい	誰とでもす ぐに仲良く なれる	有名になり たい	ひとよりも高 い収入を得 たい	自分に向い ている仕事 がわからない	できれば仕 事はしたくない	ほとんどの 人は信頼 できる	自分には政 府のすること に対して、 それを左右 する力はない
全体		1.5%	5.2%	1.2%	-9.9%	0.3%	-12.5%	-6.6%	-0.6%	-0.2%
性別	男性	0.1%	7.1%	0.4%	-9.4%	1.0%	-14.0%	-3.3%	-2.5%	-0.8%
	女性	3.0%	3.2%	2.0%	-11.0%	-1.1%	-10.9%	-10.2%	1.5%	0.5%
男性	高卒	2.8%	7.2%	1.4%	-12.2%	-1.4%	-14.8%	7.0%	-6.3%	6.5%
	専門・短大・ 高専卒	3.0%	8.3%	1.9%	-10.2%	1.3%	-9.5%	-8.1%	3.5%	5.7%
	大学・大学院 卒	-2.1%	6.6%	-2.9%	-6.5%	1.2%	-15.7%	-6.0%	-3.5%	-6.5%
	中卒・高校 中退	7.5%	11.1%	0.7%	-9.3%	9.2%	-21.9%	2.9%	-13.0%	-13.2%
	高等教育中 退	-10.4%	-1.6%	6.6%	-15.4%	-6.5%	-8.8%	-12.6%	5.4%	12.3%
女性	高卒	4.6%	6.0%	-4.2%	-8.7%	-8.6%	-8.7%	-6.6%	-0.7%	-3.9%
	専門・短大・ 高専卒	2.5%	1.8%	4.9%	-12.1%	3.0%	-14.0%	-14.2%	4.3%	1.6%
	大学・大学院 卒	3.7%	3.2%	3.2%	-9.4%	-2.5%	-8.2%	-10.0%	5.2%	-1.4%
	中卒・高校 中退	-3.7%	-3.3%	3.1%	-16.6%	17.0%	-10.8%	-5.7%	-6.3%	10.7%
	高等教育中 退	15.1%	35.6%	20.0%	-3.6%	-4.9%	-17.8%	-11.6%	0.9%	15.1%
男性	現在結婚し ている	-3.1%	5.7%	-4.4%	-8.1%	-3.2%	-5.0%	0.1%	-8.2%	3.4%
	現在結婚し ていない	-3.1%	3.7%	-6.5%	-12.7%	-4.8%	-11.6%	-2.9%	-5.1%	-3.5%
女性	現在結婚し ている	-1.2%	-5.0%	3.3%	-11.2%	0.1%	3.4%	1.8%	3.4%	-2.5%
	現在結婚し ていない	2.1%	4.3%	-5.1%	-6.3%	-2.6%	-7.4%	-8.0%	-5.2%	0.4%
男性	正社員(公務 員含む)	-2.8%	5.0%	-0.8%	-10.5%	-0.4%	-14.6%	-6.0%	-3.0%	-0.4%
	非典型雇用	14.5%	11.0%	-1.2%	-8.9%	-10.0%	3.6%	10.2%	-6.6%	0.3%
	その他の就 業	-4.8%	12.5%	-3.0%	-14.6%	-2.2%	-2.8%	3.8%	1.2%	-2.1%
	無業・その 他	-12.3%	-13.9%	-17.6%	-17.3%	-11.3%	-5.7%	-27.5%	6.8%	4.8%
女性	正社員(公務 員含む)	1.1%	1.4%	-3.2%	-7.7%	-2.2%	-5.4%	-7.2%	-1.9%	1.2%
	非典型雇用	7.8%	5.1%	4.7%	-16.3%	5.6%	-10.5%	-8.4%	5.5%	2.1%
	その他の就 業	13.0%	4.4%	0.4%	-18.9%	-1.1%	-18.9%	-6.6%	3.6%	-3.9%
	無業・その 他	7.9%	18.8%	8.7%	-15.3%	-16.4%	-5.8%	-26.5%	-2.9%	8.7%
男性	正社員一貫	-4.4%	7.8%	1.7%	-10.1%	0.1%	-13.0%	-4.3%	-2.2%	-0.1%
	正社員転職	0.1%	3.3%	5.1%	-6.7%	1.4%	-21.6%	-1.1%	-1.9%	-2.9%
	正社員から 非典型	5.1%	15.6%	0.6%	-27.3%	-27.0%	-2.9%	2.5%	5.4%	7.6%
	正社員一時 他形態	-9.6%	-9.9%	-32.1%	-27.3%	-2.3%	-25.7%	-9.0%	-8.5%	3.9%
	非典型一貫	19.9%	7.3%	-3.6%	-0.5%	-0.7%	4.3%	15.9%	-10.4%	-1.3%
	他形態から	1.2%	7.4%	-4.3%	-14.6%	-6.1%	-11.0%	-9.1%	2.7%	-1.7%
	正社員	-4.8%	12.5%	-3.0%	-14.6%	-2.2%	-2.8%	3.8%	1.2%	-2.1%
	自営・家業 現在無業	-13.6%	-13.6%	-20.2%	-18.0%	-13.4%	-6.5%	-29.7%	7.8%	5.8%
女性	正社員一貫	1.7%	-1.1%	-3.7%	-13.0%	-4.7%	-6.6%	-6.1%	3.2%	2.0%
	正社員転職	-4.4%	3.4%	-9.5%	-6.3%	5.7%	-5.4%	-11.5%	7.8%	0.8%
	正社員から 非典型	13.8%	-2.4%	3.7%	-15.5%	0.5%	-4.0%	-8.3%	9.4%	2.7%
	正社員一時 他形態	-0.4%	-0.1%	7.3%	-1.0%	11.7%	-6.9%	-19.3%	-6.4%	9.4%
	非典型一貫	4.5%	8.4%	3.6%	-14.1%	5.6%	-7.8%	-5.8%	2.1%	-0.1%
	他形態から	-0.2%	6.5%	0.3%	-4.6%	-11.3%	0.2%	0.9%	-4.7%	-5.2%
	正社員	13.0%	4.4%	0.4%	-18.9%	-1.1%	-18.9%	-6.6%	3.6%	-3.9%
	自営・家業 現在無業	7.3%	18.3%	7.4%	-13.2%	-14.0%	-3.6%	-24.9%	-4.8%	6.2%

		これまでの進路選択は順調であった	自分の生活は、周囲の人からうまくいっていると思われる	将来の見通しは明るい	経済的に自立している	努力次第で将来は切り開けると思う	仕事以外に生きがいがある	現在の生活に満足している
全体		0.1%	11.0%	6.0%	11.7%	1.7%	6.0%	12.3%
性別	男性	2.6%	17.6%	8.3%	21.5%	3.3%	2.4%	14.9%
	女性	-2.3%	4.4%	3.8%	1.2%	0.0%	9.8%	9.9%
男性	高卒	9.6%	20.9%	8.9%	19.5%	5.8%	1.2%	16.6%
	専門・短大・高専卒	0.1%	22.7%	4.8%	22.0%	1.5%	2.4%	10.9%
	大学・大学院卒	-2.9%	8.6%	8.0%	22.7%	2.7%	1.2%	14.8%
	中卒・高校中退	10.7%	30.9%	8.3%	0.7%	-1.4%	5.8%	13.3%
	高等教育中退	4.6%	24.4%	13.4%	19.7%	1.7%	7.6%	9.1%
女性	高卒	-0.5%	10.7%	5.8%	-1.3%	1.3%	10.8%	9.3%
	専門・短大・高専卒	-3.4%	6.1%	5.0%	2.8%	-1.8%	4.5%	12.4%
	大学・大学院卒	-2.2%	1.1%	0.4%	3.4%	1.8%	16.2%	9.3%
	中卒・高校中退	24.8%	18.2%	11.8%	3.7%	-8.4%	4.4%	-1.4%
	高等教育中退	13.3%	16.0%	20.0%	19.6%	12.9%	11.6%	29.8%
男性	現在結婚している	-3.7%	4.2%	-5.0%	2.5%	2.7%	-1.4%	3.4%
	現在結婚していない	-6.2%	3.9%	-1.2%	11.5%	-2.8%	-6.0%	6.0%
女性	現在結婚している	-5.7%	4.7%	-3.4%	-4.6%	-3.7%	-2.3%	-0.7%
	現在結婚していない	-8.2%	-8.5%	-3.8%	5.0%	-3.7%	5.7%	1.3%
男性	正社員(公務員含む)	-2.6%	7.9%	8.2%	17.5%	3.2%	2.2%	11.5%
	非典型雇用	-3.5%	16.8%	-12.4%	10.8%	-7.6%	-5.0%	13.6%
	その他の就業	7.4%	27.2%	6.9%	21.3%	6.2%	3.4%	11.6%
	無業・その他	-15.5%	9.9%	-1.1%	9.9%	-12.6%	9.4%	6.6%
女性	正社員(公務員含む)	-2.0%	-0.4%	2.8%	17.5%	0.2%	12.7%	10.3%
	非典型雇用	2.1%	15.2%	11.9%	-2.4%	-1.3%	5.1%	10.1%
	その他の就業	4.7%	-4.0%	7.0%	14.9%	-9.8%	1.6%	6.8%
	無業・その他	-8.5%	13.0%	-22.5%	24.6%	4.8%	4.8%	-1.3%
男性	正社員一貫	0.7%	9.3%	11.4%	20.9%	2.9%	4.7%	15.8%
	正社員転職	11.0%	10.1%	3.8%	13.2%	2.0%	-3.4%	10.0%
	正社員から非典型	-4.8%	22.2%	-25.4%	13.3%	-10.8%	-2.9%	21.9%
	正社員一時他形態	-15.6%	4.5%	11.2%	41.2%	-4.8%	-16.2%	11.6%
	非典型一貫	-2.8%	12.0%	-5.4%	9.0%	-5.2%	-3.8%	8.3%
	他形態から正社員	-0.9%	11.4%	2.5%	10.1%	5.6%	5.7%	7.3%
	自営・家業	7.4%	27.2%	6.9%	21.3%	6.2%	3.4%	11.6%
	現在無業	-13.5%	10.2%	1.4%	10.2%	-13.5%	5.9%	6.7%
女性	正社員一貫	2.7%	4.7%	1.6%	21.2%	-3.3%	10.8%	15.2%
	正社員転職	7.8%	10.8%	20.6%	33.0%	8.8%	25.6%	17.5%
	正社員から非典型	-4.4%	18.4%	9.6%	-4.2%	-1.4%	7.3%	17.5%
	正社員一時他形態	2.1%	-3.7%	-7.0%	12.6%	1.9%	-3.7%	3.7%
	非典型一貫	-2.7%	9.6%	7.6%	-2.3%	-5.4%	0.7%	6.0%
	他形態から正社員	4.8%	-1.3%	8.2%	11.5%	1.1%	14.3%	12.7%
	自営・家業	4.7%	-4.0%	7.0%	14.9%	-9.8%	1.6%	6.8%
	現在無業	-10.6%	14.7%	-24.2%	25.9%	2.8%	4.8%	0.4%